

2026年度 講義要綱

科目	コミュニケーション I	必修 講義	講師	廣瀬 優貴
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。</li> <li>・社会人としての基礎知識を養う。</li> <li>・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」なかむらしんいちろう)</li> <li>・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:絵本の世界を広げる技術③(絵本コンシェルジュ術)江花志乃)</li> <li>・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」千葉幸)</li> <li>・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き</li> <li>・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ)</li> <li>・就職について1年前期 1コマ(6月頃9~11回の間)1コマENMAP登録 1年後期 1コマ(11月頃)就活ガイダンス(就活年次までのスケジュール、履歴書、面接について)</li> </ul>			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人としてのコミュニケーションスキルを身に付け、同僚性を養う。</li> <li>・自己洞察力を養い、学習や実習に活かす。</li> <li>・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」なかむらしんいちろう)</li> <li>・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:絵本の世界を広げる技術③(絵本コンシェルジュ術)江花志乃)</li> <li>・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」千葉幸)</li> <li>・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代)</li> <li>・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」千葉美香)</li> <li>・絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する。(認定:「絵本の世界を広げる技術②(ワークショップ)」なかむら・加藤ふじこ・やまじひとみ)</li> <li>・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」なかむらしんいちろう)</li> <li>・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:絵本の世界を広げる技術③(絵本コンシェルジュ術)江花志乃)</li> <li>・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」千葉幸)</li> <li>・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代)</li> <li>・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」千葉美香)</li> <li>・絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する。(認定:「絵本の世界を広げる技術②(ワークショップ)」なかむら・加藤ふじ)</li> </ul>			
到達目標1	・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。計6コマ	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	・社会人としての必要なコミュニケーションスキルを發揮し、学習や実習に活かすことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>クラス活動</li> <li>クラス活動</li> <li>クラス活動</li> <li>クラス活動</li> <li>クラス活動</li> <li>クラス活動</li> <li>現場連携週</li> <li>【就職】① ENMAP登録 担当:就職相談室</li> <li>クラス活動</li> <li>クラス活動</li> <li>現場連携週</li> <li>クラス活動</li> <li>クラス活動</li> <li>クラス活動 前期終了</li> <li>オリエンテーション 後期</li> <li>【認定絵本士養成講座科目】初回「オリエンテーション」担当:なかむらしんいちろう</li> <li>クラス活動</li> <li>クラス活動</li> <li>【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」(図書館等での出会い～絵本の活用及び地域連携の可能性～)担当:千葉幸</li> <li>クラス活動</li> <li>現場連携週</li> <li>クラス活動</li> <li>【認定絵本士養成講座科目】「絵本の世界を広げる技術③」(絵本コンシェルジュ術)担当:江花志乃</li> <li>【就職】② 就活ガイダンス(就活年次までのスケジュール、履歴書、面接について) 担当:就職相談室</li> <li>現場連携週</li> <li>【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」(支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割) 課題提出 担当:千葉美香</li> <li>【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」(絵本のある望ましい空間とは)担当:江花志乃</li> <li>【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」(書評・紹介文の書き方)担当:横山雅代</li> <li>クラス活動 後期最終日</li> </ol>			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	<p>廣瀬 優貴:実務経験のある教員</p> <p>【認定絵本士養成講座担当講師】 ○なかむらしんいちろう:講座責任者・絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者 ○千葉美香:障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○江花志乃:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○千葉幸:図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代:書評に関する専門的知識を有する者 ○加藤ふじこ・やまじひとみ:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者</p>			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2026年度 講義要綱

科目	コミュニケーション I	必修 講義	講師	廣瀬 優貴
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。</li> <li>・社会人としての基礎知識を養う。</li> <li>・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」なかむらしんいちろう)</li> <li>・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:絵本の世界を広げる技術③(絵本コンシェルジュ術)江花志乃)</li> <li>・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」千葉幸)</li> <li>・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き</li> <li>・認定絵本土養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ)</li> <li>・就職について1年前期 1コマ(6月頃9・11回の間に1コマ)ENMAP登録1年後期 1コマ(11月頃)就活ガイダンス(就活年次までのスケジュール、履歴書、面接について)</li> </ul>			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人としてのコミュニケーションスキルを身に付け、同僚性を養う。</li> <li>・自己洞察力を養い、学習や実習に活かす。</li> <li>・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」なかむらしんいちろう)</li> <li>・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:絵本の世界を広げる技術③(絵本コンシェルジュ術)江花志乃)</li> <li>・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」千葉幸)</li> <li>・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代)</li> <li>・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」千葉美香)</li> <li>・絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する。(認定:「絵本の世界を広げる技術②(ワークショップ)」なかむら・加藤ふじこ・やまじひとみ)</li> <li>・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」なかむらしんいちろう)</li> <li>・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:絵本の世界を広げる技術③(絵本コンシェルジュ術)江花志乃)</li> <li>・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」千葉幸)</li> <li>・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代)</li> <li>・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」千葉美香)</li> <li>・絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する。(認定:「絵本の世界を広げる技術②(ワークショップ)」なかむら・加藤ふじこ)</li> </ul>			
到達目標1	・認定絵本土養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。計6コマ	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	・社会人としての必要なコミュニケーションスキルを発揮し、学習や実習に活かすことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 オリエンテーション 2 クラス活動 3 クラス活動 4 クラス活動 5 クラス活動 6 クラス活動 7 クラス活動 8 現場連携週 9 【就職】① ENMAP登録 担当:就職相談室 10 クラス活動 11 クラス活動 12 現場連携週 13 クラス活動 14 クラス活動 15 クラス活動 前期終了 16 オリエンテーション 後期 17 【認定絵本土養成講座科目】初回「オリエンテーション」担当:なかむらしんいちろう 18 クラス活動 19 クラス活動 20 【認定絵本土養成講座科目】「絵本と出会う③」(図書館等での出会い～絵本の活用及び地域連携の可能性～)担当:千葉幸 21 クラス活動 22 現場連携週 23 クラス活動 24 【認定絵本土養成講座科目】:「絵本の世界を広げる技術③」(絵本コンシェルジュ術)担当:江花志乃 25 【就職】② 就活ガイダンス(就活年次までのスケジュール、履歴書、面接について) 担当:就職相談室 26 現場連携週 27 【認定絵本土養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」(支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割) 課題提出 担当:千葉美香 28 【認定絵本土養成講座科目】「絵本のある空間」(絵本のある望ましい空間とは)担当:江花志乃 29 【認定絵本土養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」(書評・紹介文の書き方)担当:横山雅代 30 クラス活動 後期最終日			
必須テキスト	【認定絵本土科目】認定絵本土養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	廣瀬 優貴:実務経験のある教員 【認定絵本土養成講座担当講師】 ○なかむらしんいちろう:講座責任者・絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者 ○千葉美香:障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○江花志乃:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○千葉幸:図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代:書評に関する専門的知識を有する者 ○加藤ふじこ・やまじひとみ:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2026年度 講義要綱

科目	コミュニケーション I	必修 講義	講師	石原 成
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。</li> <li>・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養う。</li> <li>・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ)</li> <li>・就職について 1年前期 1コマ(6月頃9~11回)ENMAP登録 1年後期 1コマ(11月頃)就活ガイダンス(就活年次までのスケジュール、履歴書、面接について)</li> </ul>			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己洞察力を養い、安定した人間関係を養えるようにする。コミュニケーション能力を身に付ける。</li> <li>・社会人としての自己像を明確にする。</li> <li>・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」なかむらしんいちろう)</li> <li>・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:絵本の世界を広げる技術③(絵本コンシェルジュ術)江花志乃)</li> <li>・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」千葉幸)</li> <li>・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代)</li> <li>・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」千葉美香)</li> <li>・絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する。(認定:「絵本の世界を広げる技術②(ワークショップ)」なかむら・加藤ふじこ・やまじひとみ)</li> </ul>			
到達目標1	・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。計6コマ	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	・保育者に必要とされるコミュニケーション力を養い、進路決定に必要な基本的知識、スキルを活用できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度 50点	
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	1 オリエンテーション 2 クラス活動 3 クラス活動 4 クラス活動 5 クラス活動 6 クラス活動 7 クラス活動 8 現場連携週 9 【就職】①ENMAP登録 担当:就職相談室 10 クラス活動 11 クラス活動 12 現場連携週 13 クラス活動 14 クラス活動 15 クラス活動 前期終了 16 オリエンテーション 後期 17 【認定絵本士養成講座科目】初回「オリエンテーション」担当:なかむらしんいちろう 18 クラス活動 19 クラス活動 20 【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」(図書館等での出会い～絵本の活用及び地域連携の可能性～)担当:千葉幸 21 クラス活動 22 現場連携週 23 クラス活動 24 【認定絵本士養成講座科目】:「絵本の世界を広げる技術③」(絵本コンシェルジュ術)担当:江花志乃 25 【就職】② 就活ガイダンス(就活年次までのスケジュール、履歴書、面接について) 担当:就職相談室 26 現場連携週 27 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」(支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割) 課題提出 担当:千葉美香 28 【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」(絵本のある望ましい空間とは)担当:江花志乃 29 【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」(書評・紹介文の書き方)担当:横山雅代 30 クラス活動 後期最終日			
必須テキスト	【認定絵本士科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	石原 成:実務経験のある教員 【認定絵本士養成講座担当講師】 ○なかむらしんいちろう:講座責任者・絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者 ○千葉美香:障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○江花志乃:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○千葉幸:図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代:書評に関する専門的知識を有する者 ○加藤ふじこ・やまじひとみ:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	体育講義 必修 講義	講 師	鈴木 由美	
授業概要	健康で活動的な生涯を送るためには、現代社会における健康問題を正しく理解し、日常生活の中で健康を意識する姿勢が求められる。本授業では、身体に関する基礎的な知識を身につけ、体力の維持・増進に役立つ運動・スポーツを科学的に理解するとともに、運動・スポーツの必要性や意義について学ぶ。さらに、保育の現場で子どもの健康と運動を支えるために必要な視点を養う。			
授業目標	1.現代社会における健康問題について理解する。 2.身体についての基礎的な知識や体力について理解する。 3.子どもの健康や発達における運動の必要性、生涯における運動・スポーツの意義について理解する。			
到達目標1	健康の重要性と身体のしくみについて理解し、体力の維持・増進を図るための方法を説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢<出欠状況、リアクションペーパーなど> (20点)、筆記試験 (30点)	
到達目標2	子どもの健康や発達に対する運動・スポーツの必要性を理解し、生涯にわたる運動・スポーツが健康に果たす役割や意義を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢<出欠状況、リアクションペーパーなど> (20点)、筆記試験 (30点)	
授業方法	対面授業(講義形式を中心にDVD視聴、グループディスカッション、グループワーク、実技体験なども行う。)			
授業計画	1 授業ガイダンス ・授業の目的、内容、すすめ方 ・評価について ・受講にあたって 2 健康、運動・スポーツとは ・健康の概念 ・運動・スポーツとは 3 現代社会と健康 ・健康を取り巻く環境 少子高齢化、環境問題など 4 身体のしくみ ・骨格、筋肉系 ・心肺機能系 ・神経系 5 子どもの身体の発育発達 ・スキヤモンの発育曲線 ・身体の発育発達 6 子どもの運動の発達 ・運動機能の発達 ・精神機能の発達 ・運動遊び 7 これまでの授業の振り返り ・第1回～第6回の振り返り、補足 8 【現場連携週】 子どもたちはどのような運動遊びをしていましたか？ 9 体力と運動 ・体力とは ・ロコモティブシンドローム ・サルコペニア ・フレイル 10 生活習慣について ・睡眠について ・食事について ・自律神経について 11 運動・スポーツとリスクマネジメント ・事故、けがの現状 ・ハインリッヒの法則、ヒヤリハット ・KYTトレーニング 12 【現場連携週】 運動遊びをしている子どもたちに保育者はどのようにかかわっていましたか？ 13 健康を阻害するもの、筆記試験について ・喫煙(タバコ)の害 ・飲酒(アルコール)の害 ・筆記試験の確認 14 筆記試験 ・筆記試験(第1回～第13回のまとめのテスト) 15 授業のまとめ、セルフコンディショニング ・筆記試験の解説 ・授業の振り返り ・自身の身体をケアする方法を学ぶ			
必須テキスト	特になし(適宜プリントを配布する)			
参考文献	必要に応じて授業内で紹介する			
担当教員の専門分野等	専門分野は生涯スポーツ論、スポーツマネジメント、野外教育。社会教育団体や民間でのスポーツやフィットネスの指導経験、健康運動指導士として子どもから高齢者の健康づくり、キャンプディレクター1級として様々な事業の企画運営、大学や専門学校の教員として携わった経験を活かし、運動・スポーツの基本的な理論・技術について指導する。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	必修 体育講義 講義		講 師	菊池 一英
授業概要	生涯に渡り「健康な生活」を維持していくために、体育(幼児体育)がどのような貢献ができるか、そのための知識・技能を身に付ける。			
授業目標	1. 健康とは、体育とは、運動能力とは、発育、発達、成長とは、どのような言葉の概念規定があるかを歴史的、文化的、生理学的に学び習得する。 2. 具体的な保育場面を想定して環境構成や運動遊具を活用する保育過程を理解する。			
到達目標1	1. 保育現場を想定して、実際の指導内容を、年齢発達に沿った編成ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢・グループワーク討論への貢献度(20点) リアクションペーパー提出(30点)	
到達目標2	2. 幼児の発育、発達の特徴を踏まえ、各年齢に合わせて、実技種目で身体を動かすことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	実技種目で積極的に体を動かす(20点)チームで協力する姿勢を見せる(30点)	
授業方法	講義形式、グループワークトーキング(GW)、DVD視聴、実技体験			
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要、目標、評価、服装など) 領域「健康」の中での幼児体育の位置づけとは何か？ 2 運動遊具を使う遊び(マット)※実技 3 幼児体育の意義と社会的背景とは？ 4 運動遊具を使う遊び(巧技台)※実技 5 保育現場での体育的活動の実際ー設定保育と自由保育ー＜DVD視聴＞ 6 健康観の変遷 7 リズムダンス遊び※実技(さんぼ他) 8 現場連携 9 体育、幼児体育の歴史的変遷 10 体育遊びへの導入と展開(鬼遊び)※実技野外指導 11 ファンタジーと体育あそび 12 現場連携 13 幼児期の身体発達と運動能力の特徴 14 幼児期に体力をつける、運動能力を伸ばすとは？ 15 発育・発達・成長とは何かを問い直す＜DVD視聴＞			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	『仲間づくりのためのおもしろゲーム遊び』メイト 菊池一英著			
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。保育所に副園長兼保育士として長年勤務。現在幼児体育講師として保育所にスーパーバイザーとして非常勤勤務。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	30 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	日本語		必修 講義	講 師	廣瀬 優貴
授業概要	人間の言語能力である「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの特徴を理解し、保育者として求められる基礎的な言語能力の向上を目指す。実習や保育現場での対応を想定して、4つの言語能力を具体的な場面から考える。				
授業目標	1.「話すこと」自分の伝えたいことを分かりやすく表現する。 2.「聞くこと」相手の言いたいことを的確に把握する。 3.「書くこと」自分の考えや思いを明確に表現する。 4.「読むこと」書いてある内容を正確に理解し、適切に口頭で表現する。				
到達目標1	自分の考えや思いを、相手意識・目的意識を考えて適切に表現することができる(書く)。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	リアクションペーパー(30点)・【書く】課題(20点)		
到達目標2	話し手や書き手の言いたいことを正確に理解し、自分の考えを明確にすることができる(話す・聞く・読む)。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への積極的な取り組み度(10点)・【話・聞・読】課題(40点)		
授業方法	保育現場を想定した具体的な場面をもとに学ぶ。グループワークやペアワーク、ディスカッション、文章作成などの活動を通して、相手に伝える表現力や理解力を実践的に身につける。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価他)・【話】自己紹介 2 【書】文章の基本 3 【話】状況を分かりやすく説明する 4 【書】観察記録の書き方 5 【話】子どもへの話し方(言葉の言い換え) 6 【話】素話 7 【話】保護者への話し方(敬語) 8 現場連携 保育課題【子供たちの様子を観察し、印象に残った場面について「観察記録」を簡単に書きましょう。】 9 【聞】話の聞き方(相手の話を理解する) 10 【話】言葉遊び・わらべうた(1) 11 【話】言葉遊び・わらべうた(1)(模擬保育) 12 現場連携 保育課題【子供と保育者の関わりの中で言葉遊び・わらべうた等があった場合、その場面、内容等を書きましょう。また、それらがなかった場合、保育者が子供に語りかける言葉で印象に残ったものについて、その場面、内容等を書きましょう。】 13 【書】連絡帳の書き方 14 【読】文章を読む(新聞記事など) 絵本の読み聞かせ 15 【書】発表・授業のまとめ				
必須テキスト	なし				
参考文献	授業中に適宜紹介				
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10%	
	社会人としての基本	20%	主体性 素直 思いやり	10%	
	他者と関わる力	20%	専門的知識・技術	30%	

## 2026年度 講義要綱

科 目	日本語	必修 講義	講 師	橋本 千鶴
授業概要	人間の言語能力である「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの特徴を理解し、保育者として求められる基礎的な言語能力の向上を目指す。実習や保育現場での対応を想定して、4つの言語能力を具体的な場面から考える。			
授業目標	1.「話すこと」自分の伝えたいことを分かりやすく表現する。 2.「聞くこと」相手の言いたいことを的確に把握する。 3.「書くこと」自分の考えや思いを明確に表現する。 4.「読むこと」書いてある内容を正確に理解し、適切に口頭で表現する。			
到達目標1	自分の考えや思いを、相手意識・目的意識を考えて適切に表現することができる(書く)。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への積極的な取り組み度(10点)・課題の評価①小論文(提出必須20点)②観察記録(10点)③連絡帳(5点)・リアクションペーパー(5点) →合計50点	
到達目標2	話し手や書き手の言いたいことを正確に理解し、自分の考えを明確にすることができる(話す・聞く・読む)。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への積極的な取り組み度(10点)・授業内の実技の評価①素話の発表(10点)②話の聞き方(5点)③言葉遊び(10点)④絵本の読み聞かせ(5点)・リアクションペーパー(10点) →合計50点	
授業方法	保育者に必要な4つの言語能力について、グループワーク・ディスカッション等の体験や実技を通して実践的に学ぶ。			
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価他)・【話】自己紹介・【聞】素話の紹介 2 【書】文字の正しい書き方(平仮名・漢字他) 3 【書】観察記録・実習日誌の書き方 4 【書】連絡帳の書き方 5 【書】原稿用紙の使い方・小論文の書き方 6 【話】保護者への話し方・敬語 7 【話】素話の発表 8 現場連携 保育課題【子供たちの様子を観察し、印象に残った場面について「観察記録」を簡単に書きましょう。】 9 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(言語的技法・非言語的技法) 10 【話】子供と楽しむ言葉遊び(1) 11 【話】子供と楽しむ言葉遊び(2)(模擬保育) 12 現場連携 保育課題【子供と保育者の関わりの中で言葉遊び・わらべうた等があった場合、その場面、内容等を書きしょう。また、それらがなかった場合、保育者が子供に語りかける言葉で印象に残ったものについて、その場面、内容等を書きしょう。】 13 乳幼児の言葉の発達と言語表現 14 【読】文章の読み方(音読)・【読】絵本の読み聞かせ 15 【読】昔話(解釈と言葉のおもしろさ)・まとめ			
必須テキスト	特になし。			
参考文献	授業で適宜紹介。			
担当教員の 専門分野等	小学校教員として長く勤務し、国語・言葉分野を重点的に研究。日本カウンセリング学会認定カウンセラー(カウンセリング心理士)。大学等で、幼児と言葉・保育内容指導演(言葉)・文章表現・言語文化表現・教育相談(カウンセリング)等の授業を担当。「教師・保育者のための教育相談」(共著・萌文書林)を出版。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育原理 必修 講義	講 師	竹島 孝昭	
授業概要	「保育とは何か」ということについて考える。 自分の考えを持って、保育は誰のためにあり、何のためにあるのか、自分はどんな保育者になりたいか、を考え続けるための授業である。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育の意義及び目的について理解する。</li> <li>2. 保育に関する法令及び制度を理解する。</li> <li>3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。</li> <li>4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。</li> <li>5. 保育の現状と課題について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	保育は誰のためにあるのか、何のためにあるのかを説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ワークシート(20点)</li> <li>・期末テスト(30点)</li> </ul>	
到達目標2	保育における「5領域」の内容を自分の言葉で説明できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内提出課題(20点)</li> <li>・授業内のグループワーク取り組み(30点)</li> </ul>	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義やグループワーク</li> <li>・テスト(小論文形式)</li> </ul>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 子どもの権利と最善の利益</li> <li>3 保育の理念と保育の基本</li> <li>4 養護と教育の一体性について</li> <li>5 保育の内容:3つの視点と5領域</li> <li>6 5領域への理解を深める</li> <li>7 保育内容:内容の取扱いと配慮事項</li> <li>8 現場連携週</li> <li>9 保育実践から学ぶ</li> <li>10 保育の計画と記録</li> <li>11 保育の歴史から学ぶ</li> <li>12 現場連携週</li> <li>13 エピソードの検討:保育者の関わりについて</li> <li>14 これからの保育に向けて</li> <li>15 期末テスト</li> </ol>			
必須テキスト	保育所保育指針(幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領)			
参考文献	授業時に紹介			
担当教員の 専門分野等	本校専任講師であり、保育園での実務経験のある教員			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	25 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	25 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	必修 教育原理 講義		講 師	日限 脩一郎
授業概要	本講義では、教育について原理的に捉え直してみます。「原理的に捉え直す」には、大きく2つの方法がありえます。一つは、哲学的に考えてみる こと、もう一つは、歴史を参照して見ることです。保育、幼児教育に携わる人にとってはもちろん、他人を育て、また、他人から育てられざるを得ない 人間一般にとっても避けては通れないことについて、一緒に学び、考えてゆきましょう。			
授業目標	一つ目の目標は、教育について哲学的に考え続けることに馴染むことです。教育に関わる出来事や概念に関するこれまで通りの「ふつうの」見方 を一旦外して「本当に?」「どういうこと?」と考え直してみましょう。とはいえ、急には難しいでしょうから、何人かの哲学者・思想家の力を借ります。 そうすることで、教育に対する見方を広げたり、悩みや疑問の解消につながったりするかもしれません。			
到達目標1	「学校」「家族」「学び」「発達」「能力」といった概念について、一応の定義を確認するとともに、それらがいかに「や わらかい」概念であるか、他者との協働を踏まえて説明・ 議論できるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	ペアワーク、グループディスカッションやリフレクションシ ート、試験の内容を総合的に評価する(50点)	
到達目標2	教育についての考え方、方法や内容、制度が前近代-近 代、戦前-戦後、そして現代に至るまでどのような変遷を たどったか、それぞれの時代の具体的な様相・特徴を踏 まえて説明できるようになる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	ペアワーク、グループディスカッションやリフレクションシ ート、試験の内容を総合的に評価する(50点)	
授業方法	教科書の該当箇所を事前に読み、内容のある程度把握したことを前提として講義を進めます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要</li> <li>2 子ども教育の遊びと学び</li> <li>3 子どもが育つ環境——学びをつむぐ豊かな環境とは</li> <li>4 子どもの発達——発達を支え、促す学びの方法</li> <li>5 子ども教育者という仕事——ともに学び育つために</li> <li>6 子ども教育の系譜——子どもはなぜ園・学校に通うのか</li> <li>7 子どもという存在——子どもはいかに発見されたか</li> <li>8 現場連携</li> <li>9 子ども教育について考える——先人たちの知恵に学ぼう</li> <li>10 子ども教育を支える仕組み——豊かな学びを実現するために</li> <li>11 気になる子の理解と対応——子どもの問題にどう向き合うか</li> <li>12 現場連携週</li> <li>13 子どもの育ちと学びをつなぐ——幼児期から児童期へ</li> <li>14 これからの社会と子ども教育——どんな大人に育てほしいか</li> <li>15 講義のまとめと議論</li> </ol>			
必須テキスト	福元真由美『はじめての子ども教育原理』(有斐閣、2017年)			
参考文献	必要に応じて紹介します。			
担当教員の 専門分野等	もともと、アンリ・ベルクソンというフランスの哲学者に関心をもっていました。彼は、19世紀の終わりに「心理学は時間概念の扱いがおかしい」とい う議論をしています。この議論は教育にも深く影響を与えるもので、その後、紆余曲折を経て、最近ではベルクソン哲学を教育の理論、とりわけ歴史 教育の理論として読み直すという作業をしています。他にも、理科教育やインクルーシブ教育、性教育の勉強・研究もしています。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	25 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	5 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	教育原理 必修 講義	講 師	大橋 歩実	
授業概要	講義では「教育とは何か」という問いを、歴史的・思想的な知識をもとに原理的に問い直します。現代の教育をめぐる諸課題を現場の知見と重ねながら多角的に考察するとともに、子どもたちが直面する現実とその背景にある教育の論理を学びます。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の歴史・思想・制度に関する基礎的知識を習得し、「教育とは何か」という問いを多角的・原理的に考察する力を身につける。</li> <li>・現代の子どもを取り巻く環境や教育的諸課題と向き合いながら、自らの教育観を言語化し、実践の根拠として持てるようになる。</li> </ul>			
到達目標1	教育学の基本的な諸概念及び教育に関する理念・歴史・思想に関する基礎的な事項について理解し、自らの教育観を深めることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	毎回のリアクションペーパー(20点)、レポート(30点)	
到達目標2	講義の中で考えたことについて自分の言葉で表現することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	毎回のリアクションペーパー(20点)、レポート(30点)	
授業方法	基礎的な事柄については講義形式で授業を行い、適宜グループワークやディスカッションに取り組みます。毎回のリアクションペーパーと、期末レポートに基づいて評価します。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「良い教育」とはなんだろう</li> <li>2 教育はなんのためにあるのか:教育思想を学ぶ</li> <li>3 「子ども」とはどのような存在か:「子ども」の発見から子どもの権利条約まで</li> <li>4 子どもはいつから学校に通うようになったのか:公教育の誕生</li> <li>5 どのような制度のもとで保育・教育は行われているのか</li> <li>6 子どもにとって「遊び」とはなにか</li> <li>7 保育者にとって「教育する」とはどういうことか</li> <li>8 現場連携週</li> <li>9 現代の子どもたちはどのような環境に置かれているのか</li> <li>10 インクルーシブ教育とはなんだろう:その理念と背景を学ぶ</li> <li>11 インクルーシブ教育の実践例を学ぶ</li> <li>12 現場連携週</li> <li>13 インクルーシブ教育と社会参加:何のための「包摂」なのかを考える</li> <li>14 保育と小学校教育のはざままで:幼小接続の現状と課題を考える</li> <li>15 あらためて「良い教育・良い保育」とはなんだろう</li> </ol>			
必須テキスト	特に指定しません。授業中に適宜紹介します。			
参考文献	特に指定しません。授業中に適宜紹介します。			
担当教員の専門分野等	専門分野:障害学、教育史、インクルーシブ教育。東京大学大学院教育学研究科博士課程。修士(教育学)。 主な活動:中学校における学習支援員(東京都国立市)。福島県の小中学校における学習支援活動。障害の有無に関わらず共に遊び学ぶ場の運営、自立生活を送る障害者の介護。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	25 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子ども家庭福祉 必修 講義		講 師	森脇 晋
授業概要	近年、子育てをめぐる地域や家庭の状況は変化し、核家族化の進展や地域のつながりの希薄化から、日々の子育てに対する助言、支援や協力を得ることが困難な状況になっており、子育ての負担や不安、孤立感の高まりの中で、児童虐待や子どもの貧困などが大きな社会的問題になっている。そこで、本科目では、「子どもの最善の利益」を守る保育者に必要な、子どもとその家庭の理解、子育て家庭への支援に関する基本的事項を網羅的に学んでもらう。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。</li> <li>2. 子どもの人権擁護について理解する。</li> <li>3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。</li> <li>5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	福祉専門職として、現在社会と子ども家庭福祉の現状や課題、福祉制度や福祉サービスの実際、展望について説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業ごとに実施する確認テスト(50点)	
到達目標2	福祉専門職として、子どもの人権擁護について意見を述べるができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する期末の筆記試験(50点)	
授業方法	動画視聴も含めて講義中心で進めていくが、状況に応じて、授業参加を求めながら行っていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子ども家庭の福祉・子どもの人権擁護</li> <li>2 子ども家庭福祉の歴史</li> <li>3 子ども家庭福祉の制度と法律</li> <li>4 子ども家庭福祉を実施する機関と施設</li> <li>5 児童福祉施設の現状と専門職</li> <li>6 少子化と子育て家庭へのサービス</li> <li>7 地域の子育て支援サービス</li> <li>8 現場連携週</li> <li>9 児童虐待・DV・社会的養護</li> <li>10 障害児の福祉</li> <li>11 子育て支援と子どもに関する諸課題</li> <li>12 現場連携週</li> <li>13 地域における連携・協働とネットワーク</li> <li>14 子ども家庭福祉の最新動向・課題と将来像</li> <li>15 試験と振り返り</li> </ol>			
必須テキスト	図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉 (萌文書林)			
参考文献	授業内で紹介する			
担当教員の専門分野等	母子生活支援施設における施設長経験や、運営指針・ビジョン等の策定に携わった経験、自治体のこども家庭支援員の経験を元に、子どもの家庭福祉の概念から最新動向に至るまでを、具体的な事例や動画を織り交ぜながら、受講者自身が考える授業を志向する。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	25 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子ども家庭福祉 必修 講義		講 師	荒田 直輝
授業概要	本授業では①子どもと子育てをする者を取り巻く環境についての理解を深めること②子ども家庭福祉について関わる施設や機関について学ぶこと③エンパワメント・ストレングスの概念から子ども・家庭に関わる保育者の専門性の特徴を掴むことを目的とする。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 子どもの人権擁護について理解する。</li> <li>3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。</li> <li>5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	子ども家庭福祉における基礎的な知識に対して幅広く興味・関心を持つことを目標とする。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(出席状況も加味) 50点	
到達目標2	子ども家庭福祉の各回のテーマで学んだ内容に対して感じたことを言語化する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	各回授業の終わりに小レポート(感想を含む) 50点	
授業方法	パワーポイント・映像資料などを用いた講義形式。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 「子どもの権利」とは</li> <li>3 子ども家庭福祉の歴史的展開</li> <li>4 現代社会における「子どもと生活」</li> <li>5 子育てをめぐる問題①</li> <li>6 子育てをめぐる問題②</li> <li>7 保育サービス①</li> <li>8 現場連携</li> <li>9 保育サービス②</li> <li>10 子どもの遊びと福祉①(児童館とは)</li> <li>11 子どもの遊びと福祉②(学童保育とは)</li> <li>12 現場連携</li> <li>13 子どもの遊びと福祉③(冒険遊び場とは)</li> <li>14 子どもの居場所と福祉</li> <li>15 子ども・若者の社会参加・参画</li> </ol>			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	特に指定なし			
担当教員の 専門分野等	子ども・若者支援、プレイソーシャルワーク、遊びと福祉。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	40 %
	社会人としての基本	0 %	主体性 素直 思いやり	0 %
	他者と関わる力	0 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	社会福祉		必修 講義	講 師	久利 要子
授業概要	現代における社会福祉の意義と歴史の変遷、相談援助の実際について学ぶ。 子ども家庭支援の視点に立ち、最新動向をふまえて現場の実践に関連づけながら学習する。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。</li> <li>2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>3. 社会福祉における相談援助について理解する。</li> <li>4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。</li> <li>5. 社会福祉の動向と課題について理解する。</li> </ol>				
到達目標1	1. 子育て家庭の生活課題について、現代の社会状況をふまえて広い視野で考えることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(5点) 現場連携課題等の提出状況(20点) 確認レポート(25点)		
到達目標2	2. 相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉の今後の展望に自らの関心を向けていくことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(5点) 現場連携課題等の提出状況(20点) 確認レポート(25点)		
授業方法	講義形式。テキストの内容に関連する最新資料や映像教材なども活用していく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 初回ガイダンス・社会福祉の理念と概念</li> <li>2 社会福祉の歴史の変遷</li> <li>3 子ども家庭支援と社会福祉</li> <li>4 社会福祉の制度と法体系</li> <li>5 社会福祉の実施機関</li> <li>6 社会保障及び関連制度の概要</li> <li>7 現場連携</li> <li>8 社会福祉の専門職</li> <li>9 相談援助の理論</li> <li>10 相談援助の意義と機能</li> <li>11 現場連携</li> <li>12 相談援助の対象と過程</li> <li>13 相談援助の方法と技術</li> <li>14 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み</li> <li>15 今後の展望・学習のまとめ(確認レポート)</li> </ol>				
必須テキスト	『十訂 保育士をめざす人の社会福祉』相澤譲治編、株式会社みらい				
参考文献	『社会福祉小六法2026』ミネルヴァ書房 など(授業中に適宜、紹介します。)				
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 保育士、社会福祉士として母子生活支援施設や高齢者在宅サービスの現場で相談業務を経験し、「ソーシャルワーカーとしての保育士の役割」を研究テーマとしている。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	30 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	社会的養護 I 必修 講義		講 師	藤高 直之
授業概要	児童の養護は、児童本来の家庭における養護(家庭養護)と児童福祉施設、制度、機関による社会的養護の連携および協力によってはじめて十分なものとなる。このことをふまえて、とくに社会的養護における施設養護および里親制度のあり方について、歴史、制度、現状を理解し、また国の動向を把握する。さらに児童養護施設をはじめとする児童福祉施設における処遇に共通する養護上の基本原理を理解する。また、視聴覚教材および現場で実践されている職員の方の講話を通じて社会的養護の実態を知る。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。</li> <li>3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。</li> <li>5. 社会的養護の現状と課題について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	社会的養護の概要について説明できる。また、各児童福祉施設の目的と機能、および設備運営基準について説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	社会的養護の現状と課題について、現代の社会的状況をふまえた上で指摘することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークへの貢献度(50点)	
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会的養護の理念と概念</li> <li>2 社会的養護の歴史の変遷</li> <li>3 子どもの人権擁護と社会的養護</li> <li>4 社会的養護の基本原則</li> <li>5 社会的養護における保育士等の倫理と責務</li> <li>6 社会的養護の制度と法体系及び社会的養護のしくみと実施体系</li> <li>7 社会的養護とファミリーソーシャルワーク</li> <li>8 現場連携回</li> <li>9 社会的養護の対象と支援のあり方</li> <li>10 家庭養護と施設養護</li> <li>11 社会的養護にかかわる専門職</li> <li>12 現場連携回</li> <li>13 社会的養護に関する社会的状況および施設等の運営管理の現状と課題</li> <li>14 被措置児童等の虐待防止の現状と課題</li> <li>15 筆記試験及び講義のまとめ</li> </ol>			
必須テキスト	新基本保育シリーズ6 社会的養護1 第2版中央法規出版 ISBN978-4-8058-8789-9			
参考文献	参考資料は授業時に紹介。			
担当教員の 専門分野等	子育て支援を中心とした子ども家庭福祉分野を専門とする教員。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	社会的養護 I		必修 講義	講 師	北川 裕子
授業概要	社会的養護の役割や援助内容を学ぶ。				
授業目標	1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4. 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5. 社会的養護の現状と課題について理解する。				
到達目標1	現代社会における社会的養護の意義や課題について理解できる。 社会的養護の制度や実施体系、社会的養護の基本について理解できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(10点)、講義内容に関する筆記試験(40点)		
到達目標2	子どもの人権を尊重すること、自立を支援することとは何かを考えることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(10点)、提出物(40点)		
授業方法	講義を中心に、保育現場での実践力を身につけられるよう事例研究やロールプレイ等の学習も行う。				
授業計画	1 社会的養護とは？(理念と概念) 2 社会的養護の歴史 3 子どもを取り巻く状況と社会的養護の意義・役割 4 児童観の変遷、子どもの権利擁護と社会的養護 5 施設内虐待の防止 6 児童虐待 7 社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体系、社会的養護に関わる専門職 8 現場連携週 9 養護の基本原則 10 家庭養護 11 施設養護の実際(支援内容) 12 現場連携週 13 施設養護とソーシャルワーク 14 運営管理(措置制度と利用契約制度、倫理の確立など) 社会的養護と地域福祉、今後の展望1 15 社会的養護と地域福祉、今後の展望2 筆記試験				
必須テキスト	図解で学ぶ保育「社会的養護 I」 原田旬哉他編著 萌文書林				
参考文献	参考資料は授業時に紹介。				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	15 %	
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	20 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育の心理学 必修 講義	講 師	小沢 恵美子	
授業概要	保育所にいる乳幼児期を中心に、子どもの発達について学習する。 今までの自分の経験と授業内容を関連させて、子どもの行動や人間の発達を理解する。			
授業目標	1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。			
到達目標1	子どもの発達に関する心理学の基本的知識に基づき、子どもの発達について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記期試(50%)	
到達目標2	自分が保育者となった時のことを考えながら、子どもや保護者への具体的な対応を述べるができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組みやリアクションペーパー(15%)、レポート(35%)	
授業方法	テキストを使いながら、授業内容をプリントにまとめていく。 可能であれば各自の考えを発表する機会なども設ける。			
授業計画	1 ガイダンス、子どもの発達と環境(テキストP.4～P.12) 2 情緒の発達(テキストP.42～P.46) 3 自我の発達(テキストP.47～P.53) 4 愛着の形成(テキストP.59～P.62) 5 愛着行動と愛着の発達(テキストP.62～P.66) 6 社会的相互作用(テキストP.67～P.70)、認知の発達①(テキストP.92～P.94) 7 認知の発達②(テキストP.96～P.99) 8 現場連携 9 認知の発達③(テキストP.100～P.102) 10 コミュニケーションの発達(テキストP.104～P.111) 11 乳幼児期の学びにかかわる理論(テキストP.127～P.132) 12 現場連携 13 動機づけ(テキストP.133～P.136)、遊びの分類(テキストP.139～P.140) 14 発達障がいについて(プリント配布) 15 全体のまとめ			
必須テキスト	『保育の心理学 実践につなげる、子どもの発達理解』井戸ゆかり編著、萌文書林			
参考文献	授業中に適宜紹介します。			
担当教員の専門分野等	発達心理学や教育心理学の授業を担当してきました。発達心理学でも「子ども(幼児期)」の分野に興味があります。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもの理解と援助	必修 講義	講 師	土屋 多恵子
授業概要	児童福祉施設で生活する子どもの様子、現状を学ぶ中で、子どもを理解するための視点を養う。子どもの健やかな成長のための援助について理解を深め、保育のポイントや考え方を学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。</li> <li>2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。</li> <li>3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。</li> <li>4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	子どもの育ちを支える児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(40点)	
到達目標2	子どもの育ちを支える児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点) 講義内容に関するレポート試験(40点)	
授業方法	ワークシート作成を伴う講義。演習的学習を通して、子どもの理解と援助のための基本姿勢を養う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション「子どもの理解と援助とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明)</li> <li>2 子どもの育ちを支える現場を知る</li> <li>3 子どもの育ちを支える現場①:乳児院</li> <li>4 子どもの育ちを支えるために必要なこと①:乳児院の現場から</li> <li>5 子どもの育ちを支える現場②:児童養護施設</li> <li>6 子どもの育ちを支えるために必要なこと②:児童養護施設の現場から</li> <li>7 子どもの育ちを支える現場③:母子生活支援施設</li> <li>8 現場連携</li> <li>9 子どもの育ちを支えるために必要なこと③:母子生活支援施設の現場から</li> <li>10 子どもの育ちを支える現場④:障害児入所施設</li> <li>11 子どもの育ちを支える現場⑤:障害児通所施設</li> <li>12 現場連携</li> <li>13 生涯にわたる支援の現場:障害者入所施設/通所施設</li> <li>14 生涯にわたる支援の現場:障害者支援施設の現場から</li> <li>15 学期末試験</li> </ol>			
必須テキスト				
参考文献	授業内で適宜紹介する。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。主任児童委員として地域における支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を習得する授業を行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもの理解と援助 必修 講義		講 師	藤高 直之
授業概要	様々な児童福祉施設で生活する子ども達の様子、現状を学ぶ中で、子どもの「発達」を捉える視点を養う。子どもの健やかな発達に必要な「環境」と「関わり」について理解を深め、その担い手になるための準備を進める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。</li> <li>2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。</li> <li>3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。</li> <li>4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する</li> </ol>			
到達目標1	子どもの育ちを支える児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(40点)	
到達目標2	子どもの育ちを支える児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、講義内容に関するレポート試験(40点)	
授業方法	ワークシートを用いた講義			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション:「子どもの理解とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明)</li> <li>2 子どもの育ちを支える現場を知る</li> <li>3 子どもの育ちを支える現場①:乳児院</li> <li>4 子どもの育ちを支えるために必要なこと①:乳児院の現場から</li> <li>5 子どもの育ちを支える現場②:児童養護施設</li> <li>6 子どもの育ちを支えるために必要なこと②:児童養護施設の現場から</li> <li>7 子どもの育ちを支える現場③:母子生活支援施設</li> <li>8 現場連携週</li> <li>9 子どもの育ちを支えるために必要なこと③:母子生活支援施設の現場から</li> <li>10 子どもの育ちを支える現場④:障害児入所施設</li> <li>11 子どもの育ちを支える現場⑤:障害児通所施設</li> <li>12 現場連携週</li> <li>13 生涯にわたる支援の現場:障害者入所施設/通所施設</li> <li>14 「理解と援助」のために:障害者支援施設の現場から</li> <li>15 学期末試験</li> </ol>			
必須テキスト				
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	子ども家庭福祉(主に子育て支援)が専門。大学教員と並行して社会福祉士及び保育士として、大学付属の子育て支援センターで活動中。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもの保健 必修 講義	講 師	中村 直美	
授業概要	①子どもの身体の発育、発達の基本を学ぶ。②子ども特有の身体症状や病気について学ぶ。 上記①②の知識を踏まえて 子どもの心身の健康の維持、増進の方法や現状と課題について考えていく。			
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
到達目標1	1.子どもの身体発育、発達の基本、子ども特有の身体症状や病気の基本を知り、それを踏まえた保育の中での保健的対応について、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	2.子ども特有の健康に関する問題、課題を知り健康の維持、増進について関心を持つことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)	
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義形式 2, 事例ワーク等を通して保育所での保健活動の実際等を紹介			
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 2 健康の概念について 3 子どもの身体発育の特徴について 4 子どもの運動機能の発育、原始反射について 5 新生児の理解と特徴的な病気について 6 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気① 7 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気② 8 現場連携週・「健康だな」と感じた園児の様子を教えてください。 9 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気③ 10 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気④ 11 子どもの身体機能と発達の理解、特徴的な病気⑤ 12 現場連携週 ・保育者は子どもたちに対してどのような暑さ対策(熱中症対策)をしていましたか。 13 子どもの健康状態の観察とよみられる症状について 14 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について 15 試験・まとめ			
必須テキスト	改定1版 最新 保育士養成講座 第7巻 「子どもの健康と安全」			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもの保健 必修 講義		講 師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康の定義や保健の意義を理解する。 2. 子どもの生理的解剖および機能を学び、子どもの健康維持に必要な身体的知識を理解する。 3. 子どもの心身の発達について基礎的な知識を理解する。			
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。			
到達目標1	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験50点	
到達目標2	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	提出物(課題、リアクションペーパーなど)40点 授業参加態度(授業態度やグループワーク参加態度など)10点	
授業方法	1. パワーポイントや図、グループワークなども取り入れ、内容の理解につなげ、学生と考えながら学ぶ授業構成とする。 2. 保育士、保護者、児などのあらゆる立場から健康を理解するような方法を取り入れる。 3. 興味を持ちながら更に理解できるように看護師及び子育ての体験談、社会報道の紹介等の工夫を行う。			
授業計画	1 ・心身の健康の定義と保健の意義、学ぶ必要性を理解する。 ・自己紹介 2 ・母体の妊娠～出産までの経過および、新生児の特徴を学び理解する。 ・胎児期～出生時の障害児を学ぶ。 3 ・体のつくりを知る ・臓器などの働きを知る 4 ・身体発育・運動機能発育の特徴を学び、理解する。 ・脳神経系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・脳、神経、原始反射など。 5 ・子どもが病気になった時、体調不良の表現方法や知らせ方など子どもならではの特徴を学び、理解する。 6 ・呼吸器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・肺、呼吸のしくみ、上気道炎、SIDSなど。 7 ・消化器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・胃、腸、胃腸炎、下痢など。 8 課題を提出する 9 ・睡眠とホルモンの関係を知る ・成長と睡眠の大切さを知る 10 ・感覚器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・目、鼻、口、耳、触覚などの感覚器。 11 ・感覚器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・目、鼻、口、耳、触覚などの感覚器。 12 課題を提出する 13 ・悪性腫瘍、障害など。 14 ・院内保育、病棟保育士など 15 定期試験			
必須テキスト	『子どもの保健と安全』高内正子、教育情報出版			
参考文献	授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布。			
担当教員の専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科など)。 取得資格・・・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。 出産後、小児科クリニック看護師業務。 看護業務と共に、大学、短大など兼任講師を行う。 テキスト『子どもの保健と安全・第5章』執筆。 女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。 子育て支援コミュニティ「KiraKira」発行。母子支援NPO「SKIP」を設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 %
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	60 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養 必修 講義	講 師	伊藤 僚子	
授業概要	1. 栄養に関する基礎知識、子どもの発育・発達に必要な栄養について学ぶ。 2. 食の安全、アレルギーや体調不良の時の食、障がいのある子どもの食と栄養についても学習する。			
授業目標	本講義で栄養学を専門的に学び、「教育・保育の実践的な活動に不可欠な専門的知識や技能を修得する」のが目標である。 また、本講義では栄養学に加えて食育も学ぶ。 「食べ物はすべて命あるものであること、そして自らの命が他の命により支えられていること」を理解し、生命の大切さを教育的指導者の立場で語れるようになるのが目標である。			
到達目標1	栄養の基礎的な知識を身に付け、栄養素の働きについて説明できる。 栄養バランスの取れた食事とはどのようなものか、具体的に説明できる。 乳幼児期に必要な栄養について理解し、成長期に必要な食事について説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	定期試験(50点)	
到達目標2	私たちの食料がどこでどのように作られているのか、演習をとおしてグローバルな視点で理解できる。 食育の計画を立てることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワーク課題(20点) 定期試験(30点)	
授業方法	講義および演習を行う。必要に応じて視聴覚教材も使用する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス ヒトにとって食とは何か 命の食べ方</li> <li>2 栄養に関する基本的知識① 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能</li> <li>3 栄養に関する基本的知識② 消化と吸収、栄養素の代謝</li> <li>4 栄養に関する基本的知識③ 栄養バランスのとれた食事、調理の基本</li> <li>5 発育・発達と食生活① 小児期の発育と発達、妊娠・授乳期の栄養</li> <li>6 発育・発達と食生活③ 幼児期・学童期の食生活</li> <li>7 発育・発達と食生活② 乳児期の栄養(乳汁栄養・離乳栄養)</li> <li>8 産学連携</li> <li>9 子どもを取り巻くの問題: 孤食、肥満</li> <li>10 演習: 食べ物の来し方 フードマイレージ</li> <li>11 食の安全(食中毒)</li> <li>12 産学連携</li> <li>13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 体調不良およびアレルギーの子どもへの対応</li> <li>14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 食物アレルギーのある子ども</li> <li>15 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 障がいのある子どもへの対応 子どもを取り巻くの問題: 孤食、肥満</li> </ol>			
必須テキスト	森脇千夏 他著 イラスト子どもの食と栄養 東京教学社 2026			
参考文献				
担当教員の 専門分野等	管理栄養士で専門分野は公衆衛生学、公衆栄養学(栄養を通じた社会の健康づくり) 青年海外協力隊員としてインドネシアの保健所の母子保健課で仕事をした経験を持つ。 現在は、非常勤講師として複数の大学、専門学校で教える傍ら、 管理栄養士として企業に出向き、生活習慣病予防の保健指導を行っている。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養 必修 講義	講 師	大野 康子	
授業概要	子どもの食の「発達」と「食行動」を学び、保育者として適切な食事支援の方法を習得する。また偏食や特別な配慮を要する子ども(アレルギー食・宗教食)について理解し、実践に繋がる力を養う。			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の「食べる力」を育む為に保育者としての知識とスキルを習得する。</li> <li>・乳幼児期に多く見られる「偏食」に着目し支援方法を学ぶ。</li> <li>・子どもの命に関わる食物アレルギーがどのようにして起こるのかを知り、保育現場での注意点や対応する力を習得する。</li> </ul>			
到達目標1	子どもの食生活において「栄養」と「食行動」の両方の重要性を理解し、説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み度(25点)</li> <li>・講義内容に関する筆記試験(25点)→合計50点</li> </ul>	
到達目標2	偏食児や特別な配慮を要する子どもの食事を理解すると共に、保育者としての注意点を自ら考え説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リアクションペーパーの提出回数、内容で評価(25点)</li> <li>・講義内容に関する筆記試験(25点)→合計50点</li> </ul>	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定テキストや文献のプリントを使用した講義</li> <li>・課題に対してグループでの意見交換</li> </ul>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「子どもの食と栄養」～オリエンテーション／目標・持ち物・評価・諸注意～</li> <li>2 子どもの食生活と栄養（小児の特徴と栄養状態把握）</li> <li>3 現代の食の問題（隠れ栄養不足）</li> <li>4 栄養に関する基礎的知識（糖質と脂質）</li> <li>5 栄養に関する基礎的知識（たんぱく質）</li> <li>6 産学連携</li> <li>7 乳児期の栄養（母乳栄養と人工栄養）</li> <li>8 離乳期の栄養（食べさせ方と手づかみ食べ）</li> <li>9 幼児期の栄養（偏食）</li> <li>10 幼児期の栄養（障がいを持つ子どもと偏食）</li> <li>11 食物アレルギーについて（保育所での対応）</li> <li>12 産学連携</li> <li>13 宗教食について（保育所での対応）</li> <li>14 保育所での食育</li> <li>15 筆記試験</li> </ol>			
必須テキスト	NEW ERA 子どもの食生活-保育実践にいかす栄養・食育- 上田玲子編著 ななみ書房			
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの偏食外来 大山 牧子(著) 診断と治療社2023</li> <li>・『保育所における食事の提供ガイドライン』厚生労働省2012</li> </ul>			
担当教員の 専門分野等	<p>「実務経験のある教員の授業」に該当。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児対象の食育activity講師の他、0. 1. 2歳の保育所に現役保育者として携わり子どもの食の姿について多くの事例を持つ。</li> <li>・IFNetA認定/子ども摂食エキスパートアドバイザーとして偏食に悩む養育者の支援活動を行っている。</li> </ul>			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10%
	社会人としての基本	20%	主体性 素直 思いやり	10%
	他者と関わる力	20%	専門的知識・技術	30%

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育の計画と評価 必修 講義	講 師	村山 久美	
授業概要	保育における計画の意義・目的を学ぶ 子ども理解を基に保育過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)を学ぶ 指導計画の実際について学ぶ			
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3. 子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。			
到達目標1	質の高い保育実践のための保育の計画及び評価について理解することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点) 講義内容に関する筆記課題(30点)	
到達目標2	全体的な計画と指導計画について、意義と方法を理解し、作成することができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点) 計画の作成(30点)	
授業方法	講義形式、指導計画の作成・発表(ICTの活用、協働学習を含む)			
授業計画	1 オリエンテーション 保育の目標と計画の考え方 2 保育におけるカリキュラムとは 3 子ども理解に基づくPDCAサイクルの循環 4 全体的な計画とは 5 長期的な指導計画の作成(0・1・2歳児) 6 長期的な指導計画の作成(3歳以上児) 7 短期的な指導計画の作成(0・1・2歳児) 8 現場連携集 課題「子どもが主体的に活動できる(子どもがやりたいことを見つけ、活動できる)保育環境の工夫をみることができましたか。また、それは具体的にどのようなものであったかを教えてください。」 9 現場連携振り返り 短期的な指導計画の作成(3歳以上児) 10 指導計画作成の留意事項① 11 指導計画作成の留意事項② 12 現場連携週 課題「子どもの主体性を尊重していると感じる保育者の関わりをみてくることができましたか。またそう感じた場面のエピソードを教えてください。」 13 現場連携振り返り 指導計画に基づく保育の展開 14 保育の記録と省察、評価と改善、まとめ 15 試験 「部分実習指導計画の作成」			
必須テキスト	『保育の計画と評価演習ブック』ミネルヴァ書房			
参考文献	『スラスラ書けるコツを伝授！保育実習の日記・指導案 書き方まるわかりBOOK』ナツメ社 『保育所保育指針』			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。保育所園長歴10年。「言葉」「子育て支援」「実習指導」を専門に研究。研究実績あり。『スラスラ書けるコツを伝授！保育実習の日記・指導案 書き方まるわかりBOOK』ナツメ社、『子どもの理解と援助』一藝社、第3章執筆。『子どもの文化』共感共鳴共有すること、『あそびと環境0・1・2歳 12月号』連絡帳の書き方講座(P.38~41) gakken執筆。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育の計画と評価 必修 講義	講 師	佐藤 めぐみ	
授業概要	保育における計画の意義・目的を学ぶ 子ども理解を基に保育過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)を学ぶ 指導計画の実際について学ぶ			
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3. 子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。			
到達目標1	質の高い保育実践のための保育の計画及び評価について知り、必要な事は自ら調べアクションペーパーにまとめることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点) リアクションペーパー(30点)	
到達目標2	全体的な計画と指導計画について、意義と方法を理解し、作成することができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に対する小テスト2回(40点) 授業への取り組み(10点)	
授業方法	講義形式、調べ学習、指導計画の作成・発表(ICTの活用、協働学習を含む)			
授業計画	1 オリエンテーション 保育の目標と計画の考え方 2 保育におけるカリキュラムとは 3 子ども理解に基づくPDCAサイクルの循環 4 全体的な計画とは 5 長期的な指導計画の作成(0・1・2歳児) 6 長期的な指導計画の作成(3歳以上児) 7 小テスト 8 産学連携 課題「子どもが主体的に活動できる(子どもがやりたいことを見つけ、活動できる)保育環境の工夫をみることができましたか。また、それは具体的にどのようなものであったかを教えてください。」 9 短期的な指導計画の作成(0・1・2歳児/3歳以上児) 10 指導計画作成の留意事項 11 指導計画に基づく保育の柔軟な展開 12 産学連携 課題「子どもの主体性を尊重していると感じる保育者の関わりをみてくることができましたか。またそう感じた場面のエピソードを教えてください。」 13 保育の記録と省察 14 保育の評価と改善 15 小テスト			
必須テキスト	『保育の計画と評価演習ブック』ミネルヴァ書房			
参考文献	適宜使用			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容総論 必修 講義	講 師	岩井 英之	
授業概要	この科目では保育内容を総合的にとらえ、基本的な目的や方針、実践方法についての理解を深める。また、実際の保育現場の事例を通して子どもの発達に応じた支援、遊びや環境の重要性、保育計画の立て方などを知る。			
授業目標	1、多様な考え方や保育者、環境と出会う事によって、自分なりの考え、保育者像、環境イメージを持つ。 2、互いの意見を知る経験を重ねることにより、合意形成する力を養う。 3、子どもの発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の方法や内容を知る。			
到達目標1	子どもの発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の方法や内容を知り、保育者像を持つことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	目標1=50点	
到達目標2	他者と関わることを通して(ディスカッション等)、自分を知ること他者(大人、子ども)を知る大切さに気付くことが出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	目標2=50点	
授業方法	講義、ディスカッション、個人ワーク、グループワーク			
授業計画	1 ガイダンス、保育園・イメージ 2 保育所保育指針・5領域のつながりについて 3 保育所保育指針・5領域のつながりについて 4 保育で見られる人間関係・言葉について 5 健康・食育の実践について / レポートテスト 6 現場連携週 7 子どもの人権 養護と教育 8 子ども同士の関わりについて考える(個と集団) 9 主体的な保育とは 10 保育環境について 11 保育計画を考える / レポートテスト 12 現場連携週 13 地域との連携、小学校等との連携を踏まえた保育 14 保育者に求められる専門性について 15 テスト			
必須テキスト	保育所保育指針			
参考文献				
担当教員の専門分野等	保育園に17年勤務。主任、副園長と経験し、現在は園長として勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30%	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10%
	社会人としての基本	10%	主体性 素直 思いやり	20%
	他者と関わる力	20%	専門的知識・技術	10%

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容総論 必修 講義	講 師	戸田 真	
授業概要	この科目では、保育内容を総合的に捉える視点を養い、実際の保育現場の事例を通して保育内容について理解を深めます。授業を通して様々な保育知識や価値観に触れ、自分の保育観の基礎を考えていきます。			
授業目標	1. 多様な保育者像、環境、考え方と出会うことによって、自分なりの保育者像、環境イメージを持つ。 2. 共同作業の経験を重ねることによって、人と協力的な関係を気づく力を養う。 3. 子どもの発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の展開を知る。			
到達目標1	子ども発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の展開を知ることで自分なりの保育士像を持つことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	レポート→25点 テスト→25点	
到達目標2	ディスカッション等の経験を重ねることによって他者との関わる力を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論貢献→25点 意欲態度→25点	
授業方法	講義・ディスカッション・個人ワーク・グループワーク			
授業計画	1 保育のイメージ 保育園における養護と教育とは何か考える 2 環境について 人的環境・物的環境を考える 3 子どもの道徳理解について考える 4 子どもの自制心について考える 5 保育園の保護者支援について 6 いのちについて 7 保育園における伝統行事 8 産学連携 9 友達同士の関わりで学ぶものとは 10 保育の中の選択とは 11 保育園の食育・リスク管理について 12 産学連携 13 子どもの権利条約について考える。 14 自分の保育感を考える 15 試験			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業に該当。 幼稚園9年、保育園10年勤務 現在主任として勤務、第三者評価員として評価機関に所属。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	40 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容総論 必修 講義	講 師	遠藤 祐太郎	
授業概要	保育現場で必要とされる保育内容の基本的知識を学ぶ。 現代の保育を事例にし、保育士の役割、専門的知識、子どもの発達について理解を深める。			
授業目標	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質、能力」「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章の繋がりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画、実践、記録、省察、評価、改善)につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。			
到達目標1	保育内容について基本的な知識を理解し、柔軟に活用することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内課題 50	
到達目標2	ディスカッションやグループワークを生かし、保育士の専門的知識、子どもの発達、特徴など具体的なことを理解し、説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ制作 50	
授業方法	講義、ディスカッション、グループワーク、			
授業計画	1 オリエンテーション 授業の進め方 保育内容とは 2 保育環境 保育者の役割 3 乳児クラスについて(0歳児) 4 乳児クラスについて(1歳児) 5 乳児クラスについて(2歳児) 6 幼児クラスについて(3歳児) 7 幼児クラスについて(4歳児) 8 現場連携週 9 幼児クラスについて(5歳児)+学童保育 10 子どもの多様性、早生まれ、障害児保育 11 海外の保育(デンマーク) 12 現場連携週 13 発表準備 14 デンマークのクリスマス飾り 15 発表(振り返り)			
必須テキスト	なし			
参考文献	保育所保育指針、保育内容総論			
担当教員の専門分野等	デンマークと日本の保育園に勤務。0歳児から小学生までの保育を経験。保護者とカウンセリングを積極的に行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊び I 必修 講義		講 師	真砂 雄一
授業概要	子ども達に運動遊びの楽しさを教えるためにも、まずは学生自身が運動遊びを体験する。 そして、子どもたちの表現と運動に関する知識を身に付ける。 環境構成について考え、展開するための技術を学ぶ。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	子どもの運動、表現遊びについての基礎知識を説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関するレポート(30点)	
到達目標2	子どもの発育発達に沿った運動遊びについて理解し、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークでの貢献度(20点)、実践発表(30点)	
授業方法	保育現場でどのような運動遊びが求められているか、実践を通し考えを深めていく。 運動遊びの援助・指導・安全管理等、環境構成、計画立案等、様々な形の学習を体験する。 1回目はガイダンス、15回目はレポート試験のため自教室で座学形式で行う。 2回目以降から7階A71体育教室にて、実際に身体を動かす運動遊びを実技形式で行う。 *1回目のガイダンスにて、2回目以降の運動遊びに関する詳細を伝える。 *進行状況に合わせて内容や順番を適宜変更する。			
授業計画	1 ガイダンス、幼児期に必要な運動とは 2 からだほぐし、からだづくり運動 3 身体表現、リズム遊び 4 ボール遊び 5 リレー種目、運動会種目 6 運動遊び実践の計画立案作成/グループ決め 7 産学連携 8 運動遊び実践の準備、練習、発表順番決め 9 運動遊び実践① 10 運動遊び実践② 11 産学連携 12 運動遊び実践③ 13 運動遊び実践④ 14 運動遊び実践⑤ 15 身体表現遊びのまとめ、振り返り、レポート試験			
必須テキスト	特に必要なし			
参考文献	授業中に紹介する			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 長年保育現場で幼児体育指導員、保育士への運動指導アドバイザーをしており、今現在も保育園で子どもたちに運動遊びを教えている。 小学校で体育テクニカルアドバイザーの経験もあり。 現在は、保育系短大の学科長であり、幼児体育や健康を担当する教授として勤務。 専門分野: 幼児体育、身体表現、健康科学			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	必修 保育内容の理解と方法・音楽遊び I 講義		講 師	島内 亜津子、鈴木 真智子、高山 美帆、藤村 秀子、山崎 洋子
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。歌遊びのグループレッスンを45分、ピアノ等の個人レッスンを45分、グループ分けに従って教室を移動して受講する。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)	
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)	
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。			
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) (B)2グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 7 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)わらべ歌・手遊び歌の演習 8 産学連携第8週課題:手遊びやわらべ歌、リズム遊びや子どもの歌等、音楽遊びは現場でどのように活用されていましたか?またピアノやリズム楽器、その他の音楽遊びの環境はどのように設定されていたか、教えてください。 9 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)リリックを含む歌遊びの演習 11 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携第12週目課題:保育者が子どもの歌やリズム遊び、わらべ歌等を用いて子どもたちと関わるシーンがありましたか?その働きかけによって子どもたちの心や行動はどのように変化しましたか?感じたことを教えてください。また、そのようなシーンに出会わなかった方は、自分が取り扱いたい曲名1曲と、どんな時に、どんなねらいで用いたいかを書きましょう。 13 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) (B)共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)(B)共)			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの子』教育芸術社			
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編			
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リリック指導。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊び I		必修 講義	講 師	高山 美帆、平野 夏子、 山崎 洋子
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。歌遊びのグループレッスンを45分、ピアノ等の個人レッスンを45分、グループ分けに従って教室を移動して受講する。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)		
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)		
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。				
授業計画	<p>1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) ②グループに分かれて45分で入れ替わる)</p> <p>2 ①ピアノ等による個人レッスン/②歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。</p> <p>3 ①ピアノ等による個人レッスン/②保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。)</p> <p>4 ①ピアノ等による個人レッスン/②現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)</p> <p>5 ①ピアノ等による個人レッスン/②子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。</p> <p>6 ①ピアノ等による個人レッスン/②童謡・唱歌等の子どもの歌の演習</p> <p>7 ①ピアノ等による個人レッスン/②わらべ歌・手遊び歌の演習</p> <p>8 産学連携第8週課題:手遊びやわらべ歌、リズム遊びや子どもの歌等、音楽遊びは現場でどのように活用されていましたか?またピアノやリズム楽器、その他の音楽遊びの環境はどのように設定されていたか、教えてください。</p> <p>9 ①ピアノ等による個人レッスン/②簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ)</p> <p>10 ①ピアノ等による個人レッスン/②リリックを含む歌遊びの演習</p> <p>11 ①ピアノ等による個人レッスン/②互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。</p> <p>12 産学連携第12週目課題:保育者が子どもの歌やリズム遊び、わらべ歌等を用いて子どもたちと関わるシーンがありましたか?その働きかけによって子どもたちの心や行動はどのように変化しましたか?感じたことを教えてください。また、そのようなシーンに出会わなかった方は、自分が取り扱いたい曲名1曲と、どんな時に、どんなねらいで用いたいかを書きましょう。</p> <p>13 ①ピアノ等による個人レッスン/②個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。</p> <p>14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) ②共)</p> <p>15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)②共)</p>				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの子』教育芸術社				
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編				
担当教員の 専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リリック指導。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	必修 保育内容の理解と方法・音楽遊び I 講義		講 師	上田 亜津子、浦 啓子、 国友 真知子、高橋 裕 希子、竹田 えり
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。歌遊びのグループレッスンを45分、ピアノ等の個人レッスンを45分、グループ分けに従って教室を移動して受講する。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)	
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)	
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンをを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。			
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A B2グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 Aピアノ等による個人レッスン/B歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 Aピアノ等による個人レッスン/B保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 Aピアノ等による個人レッスン/B現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 Aピアノ等による個人レッスン/B子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 Aピアノ等による個人レッスン/B童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 7 Aピアノ等による個人レッスン/Bわらべ歌・手遊び歌の演習 8 産学連携第8週課題:手遊びやわらべ歌、リズム遊びや子どもの歌等、音楽遊びは現場でどのように活用されていましたか?またピアノやリズム楽器、その他の音楽遊びの環境はどのように設定されていたか、教えてください。 9 Aピアノ等による個人レッスン/B簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 Aピアノ等による個人レッスン/Bリトミックを含む歌遊びの演習 11 Aピアノ等による個人レッスン/B互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 12 産学連携第12週目課題:保育者が子どもの歌やリズム遊び、わらべ歌等を用いて子どもたちと関わるシーンがありましたか?その働きかけによって子どもたちの心や行動はどのように変化しましたか?感じたことを教えてください。また、そのようなシーンに出会わなかった方は、自分が取り扱いたい曲名1曲と、どんな時に、どんなねらいで用いたいかを書きましょう。 13 Aピアノ等による個人レッスン/B個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A B共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A B共)			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱい』教育芸術社			
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編			
担当教員の 専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %

2026年度 講義要綱

科目	保育内容の理解と方法・造形遊び I	必修 講義	講師	廣田 篤憲
授業概要	現場で役に立つ実践的な課題を制作し、造形の技法を身につけその能力を高め指導者としての能力を養い身につけ、絵画造形の技法および指導方法を身につける。			
授業目標	1. 幼児の造形教育の背景について理解し、育みたい「資質・能力」を知り、幼児期の終わりまでに育てたい姿を目標として、その基礎的な造形能力・表現力および指導方法を身につける。 2. 造形における教材・素材等の活用及び作成と、造形教育の環境の準備構成、指導現場で展開できる技術と表現力を実践的に習得する。 3. 子どもが生活や造形遊びにおいて体験していることを捉え、造形教育で留意、配慮すべき事項を理解する。 4. 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。			
到達目標1	到達目標1. 子どもの造形活動について理解し、造形能力の発達段階に応じた造形指導ができるようになる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、制作した作品への取り組み(30点)	
到達目標2	保育現場を考慮し、子どもの造形能力に応じた、造形環境を準備し造形遊びの内容を構成することができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	作品の制作の指導方法の理解(30点)、造形環境の準備内容の把握(20点)	
授業方法	準備された画材・素材を使用して造形作品を制作しつつ、現場での指導方法を考え習得する。多種多様な表現方法を学び身につける。			
授業計画	1 保育における造形表現の意味、造形表現の基礎知識(色彩、画材などの基礎知識)、造形表現の描画における発達段階と児童画の特徴を学ぶ(クレヨン・クレパスで体験する) ・教科書:P.112~P.119 造形表現の描画における発達段階と児童画の特徴を学ぶ(クレヨン・クレパスで体験する) ・教科書:P.218  2 クレヨン・クレパスを使って虹色の形を作ろう(指を使って画材の特性を知る) ・教科書:P.58 デカルコマニーについて7 ・教科書:P.68、P.123  3 バチック(はじき絵)、油性のクレヨンと水彩絵の具の性質を生かして ・教科書:P.56  4 画用紙をZ折りにして、展開して変化することを楽しむ絵を描く ・教科書:P.140  5 紙コップを使った工作(タコを作ろう) ・教科書:P.80  6 マーブリングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのオモチャを制作する:その1. 和紙ハガキを使ってマーブリング制作 ・教科書:P.117、P.126  7 マーブリングで紙に模様をつけ魚釣り遊びのオモチャを制作する:その2. マーブリングを施した紙を使って魚の工作、竹ひごなどを使って釣り竿作り ・教科書:P.177  8 現場連携  9 にじみ絵の技法を使ってシャボン玉を表現する:その1. ・教科書:P.147  10 にじみ絵の技法を使ってシャボン玉を表現する:その2. ・教科書:P.147  11 ペーパークラフト[アニマルフェイス] ・教科書:P.144  12 現場連携  13 クレヨン画の技法を身につける リンゴをクレヨンで描く:その1.  14 クレヨン画の技法を身につける リンゴをクレヨンで描く:その2.  15 クレヨン画の技法を身につける リンゴをクレヨンで描く:その3.			
必須テキスト	幼児造形の基礎 萌文書林 著者:樋口一成 編著			
参考文献				
担当教員の専門分野等	多摩美術大学グラフィックデザイン科卒業 中・高等学校美術科教諭を経てイラストレーション、機械式腕時計内部の鉛筆細密デッサン、立体作品、ペーパークラフト、アーマチュアの制作、アートディレクションなど			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊び I		必修 講義	講 師	高木 秀文
授業概要	親しみのある画材や身の回りにある素材を使って表現活動する「造形」を子どもと一緒にあそぶように保育者自身も楽しめるための知識と技能を身につける。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	子どもの造形活動を深く理解して寄り添い、指導と同時に支援する行動を自ら取ることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	製作課題への積極的な取り組み(30点)、特定課題(事前告知)の仕上がり(20点) 意欲的な取り組みを評価します。		
到達目標2	季節や行事に沿った造形遊びのアイデア、引き出しを増やして子どもに向けた幅広い造形活動ができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	製作課題への積極的な取り組み(30点)、特定課題(事前告知)の仕上がり(20点) 意欲的な取り組みを評価します。		
授業方法	幼児期の絵画表現を擬似的に再現して造形活動への理解と興味を深める。 身近な素材を使った製作物を作り、成果を共有する。				
授業計画	<p>1 オリエンテーション 授業内容、教材、用具、評価の説明。 児童画を鑑賞して気づいた点をコメントして共有します。 貼り絵の製作課題の準備として身の回りの用紙集めの説明。</p> <p>2 幼児期の造形表現の道すじ-1 なぐり描き期の説明と作例の共有をします。 関連演習一背面向きで顔を描く。</p> <p>3 幼児期の造形表現の道すじ-2 象徴期の説明と作例の共有をします。 関連演習一身の回りの顔さがし。</p> <p>4 幼児期の造形表現の道すじ-3 図式期の説明と作例の共有をします。 関連演習一絵描き歌を考える。</p> <p>5 貼り絵製作 1 身の回りで集めた用紙、色紙を用いて貼り絵のお弁当を作ります。</p> <p>6 産学連携</p> <p>7 貼り絵製作 2 貼り絵のお弁当を入れるリュックサックを色画用紙で製作します。</p> <p>8 紙粘土製作 1 粘土玉作り、ペットボトルへ貼り付け、色粘土作り。</p> <p>9 季節ごとの行事やテーマを考える 6月にまつわる風物や行事から題材を取った絵とお話作り。</p> <p>10 紙粘土製作 2 粘土1で作った粘土玉で頭足人を製作、他製作物の共有します。</p> <p>11 折り紙製作 折り方と切り方を変えながら各種花びらを製作します。</p> <p>12 産学連携</p> <p>13 デカルコマニー すり合わせ版画の製作と見立てた結果を共有します。</p> <p>14 紙染め製作 キッチンペーパーを使った揉み紙と紙染めをします。</p> <p>15 はじき絵製作 油性クレヨンと水彩絵具ではじき効果を共有します。</p>				
必須テキスト	特になし。				
参考文献	授業内で適宜紹介します。				
担当教員の 専門分野等	絵画(日本画)制作。埋蔵文化財修復技師。幼稚園の課外造形授業、美術研究所の児童画教室の勤務歴あり。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	15 %	
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	乳児保育 I 必修 講義	講 師	中村 直美	
授業概要	乳児保育の意義、目的、歴史、役割等の基本を学び、乳児の成長、発達の過程を学習します。また、その発達の姿を追いながら援助の方法や保育内容等の基本を学びます。			
授業目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。			
到達目標1	1, 乳児保育の意義や目的、歴史などの基本的な知識を知り具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	2, 乳児の成長、発達過程等を知り、保育の中でのその姿を想定しながら配慮事項などを具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)	
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義 2, 乳児向けの手遊びや絵本、紙芝居の紹介			
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について) 2 乳児保育とは 3 乳児保育の歴史について 4 乳児保育を支える法律について(児童福祉法、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準など) 5 乳児保育の基礎知識① 人間の赤ちゃんは無力なの？(ポルトマンの生理的早産と乳児の生得的な特性) 6 乳児保育の基礎知識② 愛着形成(ボウルビイの愛着理論) 7 保育所での愛着形成について、1～2か月、3～4か月児の発達の特徴 8 現場連携週・「乳児クラス(0. 1.2歳児)の保育室の扉にはどのような配慮がなされていましたか？」 9 5～6か月児の発達の特徴、乳児の睡眠について 10 7～8か月児の発達の特徴、SIDSについて 11 9～10か月児の発達の特徴 乳児の授乳について 12 現場連携週・「保育者は乳児にどのような言葉がけをしていましたか？」 13 11～12か月児の発達の特徴 乳児の離乳食について 14 1歳～1歳6か月児の発達の特徴 1歳6か月～3歳未満児の発達の特徴 15 試験・まとめ			
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」第四版 志村聡子編著者 同文書院			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	乳児保育 I 必修 講義	講 師	佐藤 めぐみ	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児保育の意義・目的と役割を学び、乳児保育の現状と課題を知る。</li> <li>・3歳未満児の発育・発達をふまえた保育を学ぶ。</li> </ul>			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。</li> <li>2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。</li> <li>3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。</li> <li>4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。</li> </ol> ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す			
到達目標1	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解することができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に対する小テスト2回×25点(50点)	
到達目標2	多岐にわたる「乳児保育」の内容について知り必要な事は自ら調べアクションペーパーにまとめることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	発達表の作成と提出(30点)授業への取り組み(20点)	
授業方法	授業で学んだ範囲を自ら調べたり、感じたことをアクションペーパーへ記入してまとめる。 0～3歳の発達を学び発達表を作成、提出する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持ち物について等)</li> <li>2 乳児保育はなぜ必要か</li> <li>3 乳児保育の成り立ち</li> <li>4 保育所保育指針から学ぶ</li> <li>5 人生の基礎としての乳児期</li> <li>6 小テスト(第1回～第5回までの授業を振り返る)</li> <li>7 乳児のこころの発達</li> <li>8 産学連携〈乳児クラス(0. 1.2歳児)の保育室の扉にはどのような配慮がなされていましたか?〉</li> <li>9 乳児のこぼれの発達</li> <li>10 乳児のからだ</li> <li>11 乳児保育の連携</li> <li>12 産学連携〈保育者は乳児にどのような言葉がけをしていましたか? 〉</li> <li>13 保育所の1日の流れ</li> <li>14 小テスト(第8回～第13回までの授業を振り返る)</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」同文書院			
参考文献	授業中に適宜紹介			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	25 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	5 %
	他者と関わる力	5 %	専門的知識・技術	35 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	乳児保育Ⅱ 必修 講義	講 師	佐藤 めぐみ	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児保育の基本を知り、乳幼児期の生活と援助の方法を体験する。</li> <li>・3歳未満児の発育、発達をふまえた保育を深める。</li> </ul>			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。</li> <li>2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。</li> <li>3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。</li> <li>4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。</li> </ol> ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭にいた保育を示す。			
到達目標1	【実践】座学で学んだ抱っこ、沐浴、着替え、授乳を適切に行える。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実技への取り組み(40点)授業への取り組み(10点)	
到達目標2	多岐にわたる乳児保育について知り、毎回自分でリアクションペーパーに課題をまとめることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	リアクションペーパー(50点)	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義内容から自分の考えをリアクションペーパーに記入</li> <li>・抱っこ、沐浴、着替え等の介助を実際に行う体験型学習</li> </ul>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価・持ち物等の説明)</li> <li>2 だっこのしかた・おんぶのしかた</li> <li>3 だっこのしかた・おんぶのしかた【実践】</li> <li>4 乳児の衣服の基礎、衣服の着せ方・脱がせ方</li> <li>5 おむつ替えとおむつはずれ</li> <li>6 赤ちゃんの着替えとおむつ替え【実践】</li> <li>7 授乳の仕方と離乳食の基礎知識</li> <li>8 産学連携 〈乳児クラス(0.1.2歳児)で発達に配慮されているなど感じた保育環境を記入してください。〉</li> <li>9 授乳の仕方とその準備【実践】</li> <li>10 乳児保育の安全管理</li> <li>11 沐浴の仕方・清拭の仕方</li> <li>12 産学連携 〈見学中に印象に残った乳児(0.1.2歳児)の行動を1つ取り上げ、その行動が見られた状況を具体的に記入し、その時の子どもの気持ちを考えて教えてください。〉</li> <li>13 沐浴の仕方・清拭の仕方【実践①】</li> <li>14 沐浴の仕方・清拭の仕方【実践②】</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
必須テキスト				
参考文献	「はじめて学ぶ 乳児保育」同文書院 『乳児保育演習ブック第2版』ミネルヴァ書房 松本峰雄監修			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。長年私立保育園に勤務し、主任として実習指導や職員育成に携わる。専門は「乳児保育」			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	5 %
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	必修 乳児保育Ⅱ 講義		講 師	中村 直美
授業概要	乳児保育Ⅰで学んだ3歳未満児の発達過程を踏まえて、実際の保育の場での援助方法、関わり方等を実習室での実習や、対応ワーク等で演習しながら学ぶ。			
授業目標	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。			
到達目標1	1, 3歳未満児の発達過程やその特徴を理解し具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)	
到達目標2	2, 3歳未満児の日常生活の援助の方法がわかり実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容に関する筆記試験(30点)	
授業方法	1, パワーポイントを使用した講義 2, 実習室での実技演習			
授業計画	1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について)身支度、抱っこ仕方、おんぶの仕方の実際(講義&実習) 2 乳児の衣服の基礎知識、衣服の着せ方、脱がせ方の基本について 3 乳児の排泄の基礎知識、オムツ交換の仕方の基本について 4 乳児の衣服の着脱方法、オムツ交換の実際(実習) 5 乳児のからだの清潔の基礎知識、沐浴の基本について(ブレンデット授業) 6 沐浴の実際(実習) 7 現場連携週・乳児クラス(0.1.2歳児)で発達に配慮されているなど感じた保育環境を記入してください。 8 事例ワーク 9 授乳、冷凍母乳、離乳食の基礎知識について 10 授乳、離乳食の実際 11 現場連携週・見学中に印象に残った乳児(0.1.2歳児)の行動を1つ取り上げ、その行動が見られた状況を具体的に記入し、その時の子どもの気持ちを考えて教えてください。 12 事例ワーク 13 かみつき、ひっかけについて考える① 14 かみつき、ひっかけについて考える② 15 試験・まとめ			
必須テキスト	「はじめて学ぶ 乳児保育」第4版 志村聡子編著者 同文書院			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもの健康と安全 必修 講義	講 師	中村 直美	
授業概要	保育における健康、安全の管理に関する知識を知り、具体的な方法を体験し、自分自身や仲間と考えてみることで実践力を養っていく。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。</li> <li>2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。</li> <li>3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。</li> <li>4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。</li> <li>5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。</li> <li>6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。</li> </ol> ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2012年改訂版保育所における感染症対策ガイドライン」(平成24年11月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等			
到達目標1	1. 保育現場における保健的観点を踏まえた衛生管理や感染対策についての基礎知識を知り、具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容についての試験(30点)	
到達目標2	2. 保育現場における保健的観点を踏まえた安全管理や救急対応についての基礎知識を知り、具体的に説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度、課題提出(20点)講義内容についての試験(30点)	
授業方法	パワーポイントを使用した講義で基本を学び、グループワークや演習で体験し、学習を深めていく。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(この授業で学ぶこと、授業のすすめかた等について)</li> <li>2 健康観察(身体測定、健康診断)と年間保健計画について</li> <li>3 保育環境の整備、衛生管理について</li> <li>4 子どもの事故の特徴について</li> <li>5 保育所での事故防止と安全管理について</li> <li>6 災害への備えと危機管理について</li> <li>7 て現場連携週・保育室内や園庭で子どもたちの安全を守るための環境構成や工夫など気がついた点を教えてください。</li> <li>8 救急時の対応について</li> <li>9 体調不良や傷害の対応について</li> <li>10 子どもと感染症①(基礎知識)救急時の対応について</li> <li>11 現場連携週 ・感染症から子どもたちを守るために、保育者が行っていたこと(環境設定、働きかけ、声かけ等)を教えてください。</li> <li>12 子どもと感染症②(標準予防策、保育所での集団発生への対応)</li> <li>13 子どもと感染症③(嘔吐処理の方法)</li> <li>14 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応(食物アレルギー)について</li> <li>15 試験・まとめ</li> </ol>			
必須テキスト	全国社会福祉協議会 改定1版 最新 保育士養成講座第7巻 「子どもの健康と安全」			
参考文献	授業中に紹介、適宜プリントにして配布予定。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。専門は「小児看護」「社会福祉施設等(保育所、高齢者施設等)における感染症対応」長年、医療機関、保育所、保健所にて勤務。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもの健康と安全 必修 講義		講 師	姜 碧瑩
授業概要	子どもの健康と安全に関する基礎知識を学び、実践的な対応力を身につける。日常の健康管理、感染症対策、災害・緊急時の対応などを通じて、保育者としての役割についての理解を深める。			
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成31年4月、厚生労働省)、「2018年改訂版保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月、こども家庭庁)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、こども家庭庁)等			
到達目標1	子どもの健康保持および安全維持に必要な知識を理解し、具体的に説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	定期試験(50点)	
到達目標2	具体的な保育場面を想定し、自らや仲間と考えながら、適切な対応策を講じることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	・討論への貢献度(20点) ・提出物(課題、リアクションペーパーなど)(30点) →合計50点	
授業方法	パワーポイントを用いた講義により基礎知識を習得し、グループワークによって実践的理解を深める。さらに、リアクションペーパーの記入を通して学びを振り返り、主体的な思考力を養う。			
授業計画	1 オリエンテーション(授業構成、進め方、評価などの説明)・保育における「健康」とは 2 子どもの健康と発育・発達 3 保育における健康管理(日常の観察・健康診断) 4 環境整備と衛生管理 5 事故防止と安全対策 6 体調不良時の対応 7 産学連携 8 緊急時の対応 9 災害への備えと危機管理 10 感染症への理解と対応① 11 産学連携 12 感染症への理解と対応② 13 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応 14 授業の振り返り 15 筆記試験			
必須テキスト	特になし(適宜プリントを配布)			
参考文献	授業中に紹介および適宜資料を配布			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 専門は「子どもの健康福祉」「健康管理」。人間科学博士。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもの健康と安全	必修 講義	講 師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康や安全を守る定義や意義を理解する。 2. 子ども生命維持に必要な知識を学び理解する。 3. 子どもの安全について基礎的な知識を理解し、具体的な対策等を考慮することができる。			
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等			
到達目標1	「子どもの保健」で学んだ総合的に保育することを踏まえ、子どもの健康保持や安全維持するために必要な知識を理解し深めることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	定期試験(50%)	
到達目標2	保育現場や保育活動を行う場面を想定し、具体的な安全対策が行える。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	・授業参加態度(演習態度5%、授業態度5%) ・提出物(課題など)(40%) 合計50%	
授業方法	・講義、演習、グループワーク等、授業内容にそった授業形式とする。 ・実際に起こった事故の検証、 ・子どもに起こりやすい事故の演習、 ・ポスターやマニュアルを作成 などを通して事故予防の重要性を学ぶ。			
授業計画	1 必要性の理解、オリエンテーション 子どもの健康の維持と安全管理の必要性を考え、理解する。 2 子どもの多い体調不良やけがについて① 子どもが体調不良を起こす原因、発生状況を知る。また予防法も理解する。 3 子どもの多い体調不良やけがについて② 子どもが体調不良を起こしたときの観察点や応急処置の基本を学び、理解する。 4 保育室内の危険について① 事故予防について学ぶ。 5 保育室内の危険について② けがや事故が発生しやすい箇所を見つけ、どんなけがが予測できるか、またその予防策を考える。 6 災害対策について① 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。 7 現場連携 課題を提出する 8 災害対策について② 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。ポスター作成 9 災害対策について③ 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。 10 防犯について① ・誘拐や事件の予防について学ぶ。 11 現場連携 課題を提出する 12 防犯について② ・誘拐や事件の予防について学ぶ。 13 事例検討① 実際に起こった事故を通して考えるグループワークを行う。 14 総復習 授業全体をふりかえる。 15 筆記定期試験を行う。			
必須テキスト	『新基本保育士シリーズ⑩子どもの健康と安全』松田博雄、中央法規			
参考文献	『子どもの保健と安全』高内正子、教育情報出版 授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布			
担当教員の 専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科、呼吸器科など)。取得資格・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。出産後、小児科クリニック看護師業務と同時に、女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。母子支援NPOを設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅱ 必修 講義		講 師	北川 裕子
授業概要	施設や保育士の役割や援助等、基礎的な内容について具体的に学ぶ。 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。</li> <li>2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。</li> <li>3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。</li> <li>4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。</li> <li>5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(15点)、提出物(35点)	
到達目標2	虐待の防止、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深めることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(15点)、提出物(35点)	
授業方法	事例研究やロールプレイ、児童自立支援計画の立案等を通し、保育現場での実践力を身につけられるような学習を取り入れる。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 養護の基本原理等の復習、子どもの権利擁護</li> <li>2 保育士の資質と倫理・責務、チームワーク</li> <li>3 施設養護の生活特性および実際 ①入所、日常生活援助</li> <li>4 施設養護の生活特性および実際 ②集団生活、家族調整</li> <li>5 施設養護の生活特性および実際 ③自立支援</li> <li>6 施設養護の生活特性および実際 ④退所、アフターケア</li> <li>7 現場連携週</li> <li>8 施設養護の生活特性および実際 ⑤記録の意味、個別支援計画の作成、自己評価</li> <li>9 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ①心理的支援</li> <li>10 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ②被虐待児への支援、親への支援</li> <li>11 現場連携週</li> <li>12 保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ③障がい児への支援、親への支援</li> <li>13 里親等の家庭養護の特性及び実際</li> <li>14 今後の施設の方向性(小規模化等)</li> <li>15 今後の社会的養護の方向性(家庭的養護の推進、地域との関わり、展望等)</li> </ol>			
必須テキスト	なし			
参考文献	「児童の福祉を支える 演習 社会的養護Ⅱ」吉田眞理著 萌文書林「図解で学ぶ保育「社会的養護Ⅱ」原田旬哉他 萌文書林			
担当教員の 専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。児童養護施設勤務経験あり。 児童家庭福祉・社会的養護分野を研究。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	15 %
	社会人としての基本	15 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅱ 必修 講義		講 師	藤高 直之
授業概要	社会的養護における養育上の課題や問題を抱えた家庭や子どもに対する公的な支援の実際を学ぶ。また、支援の中心的な役割を担っているのが児童福祉施設についての理解を深める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。</li> <li>2. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する。</li> <li>3. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。</li> <li>4. 社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。</li> <li>5. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。</li> </ol>			
到達目標1	子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解し、施設養護及び家庭養護の実際について説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点)、講義内容に関するレポート(30点)	
到達目標2	討論やロールプレイを通して社会的養護における支援の実際を理解し、社会的養護への関心を向けていくことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論への貢献度(30点)、発表(20点)	
授業方法	事例検討を中心とした討論、ロールプレイを中心として実施する。適宜、社会的養護Ⅰの復習を講義形式で行う。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション・社会的養護内容とは何か(社会的養護Ⅰの復習を中心)</li> <li>2 日常生活のなかに見る専門的援助の実際</li> <li>3 施設養護の具体的な取り組みの実際(日常生活支援、治療的支援、自立支援)</li> <li>4 施設の暮らし1ー施設での生活を始めるとということ</li> <li>5 施設の暮らし2ー施設の生活について(生活スタイルと日課)</li> <li>6 支援計画の実際と記録及び自己評価</li> <li>7 自立への支援(リビングケア)の取り組み</li> <li>8 現場連携回</li> <li>9 施設退所後のアフターケアの取り組みの現状</li> <li>10 社会資源としての児童福祉施設を考える</li> <li>11 社会的養護に関わる専門的技術①(被虐待児への援助方法の実際)</li> <li>12 現場連携回</li> <li>13 社会的養護に関わる専門的技術②(家庭復帰、家族再統合にむけた取り組みの実際)</li> <li>14 社会的養護に関わる専門的技術③(子ども虐待防止の取り組み、家庭支援の実際)</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
必須テキスト	テキストは指定しない。適宜、授業時にレジユメを配布する。			
参考文献	参考資料は授業時に紹介。			
担当教員の 専門分野等	子育て支援を中心とした子ども家庭福祉分野を専門とする教員。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	必修 保育実習指導 I a 講義		講 師	廣瀬 優貴
授業概要	保育所実習を有意義なものにするために、実習日誌の書き方を身につけるとともに、実習に向けた具体的な準備を進める。あわせて、実技の基礎的な練習や実習に臨む際の心構えを養い、実習で必要となる知識と技能を学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する</li> <li>4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</li> </ol>			
到達目標1	保育所実習に必要な知識を身に付け、実習日誌が記入できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業課題提出(30点)、筆記試験(日誌一日分)20点	
到達目標2	保育所実習に臨む実習生としての態度や保育技術を身に付けることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	手遊び、絵本読み聞かせ発表(20点)、指導案提出物(15点)、保育教材提出(15点)	
授業方法	講義、発表、グループワークなど			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育実習の概要 実習 I 授業ルール</li> <li>2 実習の目的と実習の種類</li> <li>3 ゲスト講師を招いて講義を聞き保育実習へのイメージを具体的に持つ</li> <li>4 実習記録を記入する意味 保育士倫理綱領</li> <li>5 実習生の健康管理と安全管理</li> <li>6 実習課題作成</li> <li>7 実習に伴う書類作成 事務手続きの確認</li> <li>8 現場連携</li> <li>9 オリエンテーション</li> <li>10 実習の心得</li> <li>11 部分実習</li> <li>12 現場連携</li> <li>13 試験</li> <li>14 手遊び・読み聞かせポイント 発表</li> <li>15 最終確認</li> </ol> <p>※授業の内容は進み具合によって変更する場合があります</p>			
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー(萌文書林)			
参考文献				
担当教員の専門分野等	幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育所での実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10%
	社会人としての基本	20%	主体性 素直 思いやり	10%
	他者と関わる力	20%	専門的知識・技術	20%

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I a		必修 講義	講 師	佐藤 めぐみ
授業概要	保育所実習を有意義なものにするために、実習日誌の書き方を身につけるとともに、実習に向けた具体的な準備を進める。あわせて、実技の基礎的な練習や実習に臨む際の心構えを養い、実習で必要となる知識と技能を学ぶ。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する</li> <li>4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</li> </ol>				
到達目標1	保育所実習に必要な知識を身に付け、実習日誌が記入できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業課題提出(30点)、筆記試験(日誌一日分)20点		
到達目標2	保育所実習に臨む実習生としての態度や保育技術を身に付けることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	手遊び、絵本読み聞かせ発表(20点)、指導案提出物(15点)、保育教材提出(15点)		
授業方法	講義、発表、グループワークなど				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育実習の概要 実習 I 授業ルール</li> <li>2 実習の目的と実習の種類</li> <li>3 ゲスト講師を招いて講義を聞き保育実習へのイメージを具体的にもつ</li> <li>4 実習記録を記入する意味 保育士倫理綱領</li> <li>5 実習生の健康管理と安全管理</li> <li>6 実習課題作成 実習に伴う書類作成 事務手続きの確認</li> <li>7 現場連携 / 実習に伴う書類作成 事務手続きの確認</li> <li>8 現場連携 /オリエンテーション</li> <li>9 オリエンテーション</li> <li>10 実習の心得</li> <li>11 現場連携 / 部分実習</li> <li>12 現場連携 / 部分実習</li> <li>13 試験</li> <li>14 手遊び・読み聞かせポイント 発表</li> <li>15 最終確認</li> </ol> <p>※授業の内容は進み具合によって変更する場合があります</p>				
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー(萌文書林)				
参考文献					
担当教員の専門分野等	保育士資格を持ち、保育所での実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %	

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I a 必修 講義	講 師	竹島 孝昭	
授業概要	保育所実習を有意義なものにするために、実習日誌の書き方を身につけるとともに、実習に向けた具体的な準備を進める。あわせて、実技の基礎的な練習や実習に臨む際の心構えを養い、実習で必要となる知識と技能を学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。</li> <li>2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。</li> <li>3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する</li> <li>4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。</li> <li>5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。</li> </ol>			
到達目標1	保育所実習に必要な知識を身に付け、実習日誌が記入できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業課題提出(30点)、筆記試験(日誌一日分)20点	
到達目標2	保育所実習に臨む実習生としての態度や保育技術を身に付けることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	手遊び、絵本読み聞かせ発表(20点)、指導案提出物(15点)、保育教材提出(15点)	
授業方法	講義、発表、グループワークなど			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保育実習の概要 実習 I 授業ルール</li> <li>2 実習の目的と実習の種類</li> <li>3 ゲスト講師を招いて講義を聞き保育実習へのイメージを具体的に持つ</li> <li>4 実習記録を記入する意味 保育士倫理綱領</li> <li>5 実習生の健康管理と安全管理</li> <li>6 実習課題作成</li> <li>7 実習に伴う書類作成 事務手続きの確認</li> <li>8 現場連携</li> <li>9 オリエンテーション</li> <li>10 実習の心得</li> <li>11 部分実習</li> <li>12 現場連携</li> <li>13 試験</li> <li>14 手遊び・読み聞かせポイント 発表</li> <li>15 最終確認</li> </ol> <p>※授業の内容は進み具合によって変更する場合があります</p>			
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー(萌文書林)			
参考文献				
担当教員の専門分野等	保育士資格を持ち、保育所での実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I b 必修 講義		講 師	藤高 直之
授業概要	様々な施設の現場に立ち、対象者との関わりを通して学ぶ「施設実習」を行う際に必要となる知識や視点を養い、「施設実習」で得る貴重な経験を、より有意義な学びとできるよう、具体的な準備を進める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義・目的を理解する。</li> <li>2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。</li> <li>3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。</li> <li>4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や 目標を明確にする。</li> </ol>			
到達目標1	講義内容を理解し、要点をまとめ、自らの考えを文章として記すことができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関するノート提出(60点)	
到達目標2	実習に臨むにあたり、目的意識や自らの課題を具体的に記すことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、実習目標の作成(20点)	
授業方法	ノート作成を伴う講義受講			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明)</li> <li>2 子どもの育ちの理解①:愛着障害(1)</li> <li>3 子どもの育ちの理解②:愛着障害(2)</li> <li>4 関わりの技術①:実際の実習より(ロールプレイ)</li> <li>5 関わりの技術②:「視点」を養う</li> <li>6 子どもの育ちの理解③:発達障害</li> <li>7 現場連携週</li> <li>8 関わりの技術③:療育場面より</li> <li>9 施設実習先の発表</li> <li>10 施設実習への具体的準備①:個人票作成、オリエンテーション準備</li> <li>11 現場連携週</li> <li>12 施設実習への具体的準備②:実習目標の作成(1)</li> <li>13 施設実習への具体的準備③:実習目標の作成(2)</li> <li>14 実習日誌の理解と練習</li> <li>15 施設実習への具体的準備:実習前/実習中/実習後にすること</li> </ol>			
必須テキスト	特になし			
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	子ども家庭福祉(主に子育て支援)が専門。大学教員と並行して社会福祉士及び保育士として、大学付属の子育て支援センターで活動中。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	25 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	10 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I b 必修 講義	講 師	土屋 多恵子	
授業概要	様々な施設の現場に立ち、対象者との関わりを通して学ぶ「施設実習」を行う際に必要となる知識や視点を養い、「施設実習」で得る貴重な経験を、より有意義な学びとできるよう、具体的な準備を進める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義・目的を理解する。</li> <li>2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。</li> <li>3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。</li> <li>4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。</li> <li>5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。</li> </ol>			
到達目標1	講義内容を理解し、要点をまとめ、自らの考えを文章として記すことができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関するノート提出(60点)	
到達目標2	実習に臨むにあたり、目的意識や自らの課題を具体的に記すことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点) 実習目標の作成(20点)	
授業方法	ノート作成を伴う講義受講。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明)</li> <li>2 子どもの育ちの理解①:愛着障害(1)</li> <li>3 子どもの育ちの理解②:愛着障害(2)</li> <li>4 関わりの技術①:実際の実習より(ロールプレイ)</li> <li>5 関わりの技術②:「視点」を養う</li> <li>6 子どもの育ちの理解③:発達障害</li> <li>7 現場連携</li> <li>8 関わりの技術③療育場面より</li> <li>9 施設実習先の発表</li> <li>10 施設実習への具体的準備①:個人票作成、オリエンテーション準備</li> <li>11 現場連携</li> <li>12 施設実習への具体的準備②:実習目標の作成</li> <li>13 実習日誌の理解と練習(1)</li> <li>14 実習日誌の理解と練習(2)</li> <li>15 施設実習への具体的準備:実習前/実習中/実習後にすること</li> </ol>			
必須テキスト				
参考文献	授業内で適宜紹介する。			
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。主任児童委員として地域における支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を習得する授業を行う。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	25 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	10 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもと保育 選択必修 講義	講 師	廣瀬 優貴	
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。			
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 実習生として必要な力を理解し、保育者の基本的なスキルを身に付ける。			
到達目標1	保育所の役割、流れ、基本的なルールについて理解できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業ワークシート:20点 授業課題提出:20点 グループワークへの取り組み:10点	
到達目標2	実習生として必要な力を理解、習得し、実践できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	報告、連絡、相談:30点 発表取り組み:20点	
授業方法	講義、実技、個人ワーク、グループワーク、ワークシートの記入、授業内で配布されたファイル・資料を使用する			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「オリエンテーション」実習授業のルールと実習について／保育施設で求められること、実習生に必要な力</li> <li>2 保育を考える／基礎国語力</li> <li>3 保育現場からのメッセージ／保育教材について・スケッチブックシアター①</li> <li>4 保育の方法／スケッチブックシアター②・JTP</li> <li>5 保育者としての自分／社会のマナー</li> <li>6 保育所のルール／手遊び・絵本調べ</li> <li>7 現場連携準備・観察の視点①／5w1hの基本</li> <li>8 現場連携週</li> <li>9 現場連携振り返り・実習日誌①／エプロン作成</li> <li>10 実習ICT／スケッチブックシアター③</li> <li>11 現場連携準備・観察の視点②／保育園のマナー</li> <li>12 現場連携</li> <li>13 現場連携振り返り・実習日誌②／スケッチブックシアター④</li> <li>14 スケッチブックシアター発表</li> <li>15 実習指導1aに向けて授業の振り返り</li> </ol>			
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー (萌文書林)			
参考文献	特になし。			
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10%
	社会人としての基本	20%	主体性 素直 思いやり	20%
	他者と関わる力	10%	専門的知識・技術	20%

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもと保育 選択必修 講義	講 師	竹島 孝昭	
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。			
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 実習生として必要な力を理解し、保育者の基本的なスキルを身に付ける。			
到達目標1	保育所の役割、流れ、基本的なルールについて理解できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業ワークシート:20点 授業課題提出:20点 グループワークへの取り組み:10点	
到達目標2	実習生として必要な力を理解、習得し、実践できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	報告、連絡、相談:30点 発表取り組み:20点	
授業方法	講義、実技、個人ワーク、グループワーク、ワークシートの記入、授業内で配布されたファイル・資料を使用する			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「オリエンテーション」実習授業のルールと実習について／保育施設で求められること、実習生に必要な力</li> <li>2 保育現場からのメッセージ／基礎国語力</li> <li>3 保育を考える／保育教材について・スケッチブックシアター①</li> <li>4 保育の方法／スケッチブックシアター②・JTP</li> <li>5 保育者としての自分／社会のマナー</li> <li>6 保育所のルール／手遊び・絵本調べ</li> <li>7 現場連携準備・観察の視点①／5w1hの基本</li> <li>8 現場連携週</li> <li>9 現場連携振り返り・実習日誌①／エプロン作成</li> <li>10 実習ICT／スケッチブックシアター③</li> <li>11 現場連携準備・観察の視点②／保育園のマナー</li> <li>12 現場連携週</li> <li>13 現場連携振り返り・実習日誌②／スケッチブックシアター④</li> <li>14 スケッチブックシアター発表</li> <li>15 実習指導1aに向けて授業の振り返り</li> </ol>			
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー (萌文書林)			
参考文献	なし			
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	子どもと保育 選択必修 講義	講 師	佐藤 めぐみ	
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。			
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 実習生として必要な力を理解し、保育者の基本的なスキルを身に付ける。			
到達目標1	保育所の役割、流れ、基本的なルールについて理解できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業ワークシート:20点 授業課題提出:20点 グループワークへの取り組み:10点	
到達目標2	実習生として必要な力を理解、習得し、実践できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	報告、連絡、相談:30点 発表取り組み:20点	
授業方法	講義、実技、個人ワーク、グループワーク、ワークシートの記入、授業内で配布されたファイル・資料を使用する			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「オリエンテーション」実習授業のルールと実習について／保育施設で求められること、実習生に必要な力</li> <li>2 保育現場からのメッセージ／基礎国語力</li> <li>3 保育を考える／保育教材について・スケッチブックシアター①</li> <li>4 保育の方法／スケッチブックシアター②・JTP</li> <li>5 保育者としての自分／社会のマナー</li> <li>6 保育所のルール／手遊び・絵本調べ</li> <li>7 現場連携準備・観察の視点①／5w1hの基本</li> <li>8 現場連携週</li> <li>9 現場連携振り返り・実習日誌①／エプロン作成</li> <li>10 実習ICT／スケッチブックシアター③</li> <li>11 現場連携準備・観察の視点②／保育園のマナー</li> <li>12 現場連携週</li> <li>13 現場連携振り返り・実習日誌②／スケッチブックシアター④</li> <li>14 スケッチブックシアター発表</li> <li>15 実習指導1aに向けて授業の振り返り</li> </ol>			
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー (萌文書林)			
参考文献	なし			
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	選択必修 保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ 講義		講 師	上田 亜津子、大須賀 かおり、高橋 裕希子、 高山 美帆、渡辺 容子
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。 15回目の実技試験課題はピアノ曲1曲、子どもの歌1曲の弾き歌いを演奏する。自身のスキルに合わせた曲目選択は担当講師とよく検討し決定すること。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌いが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)	
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)	
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。			
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A B2グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 Aピアノ等による個人レッスン/B歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 Aピアノ等による個人レッスン/B保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 Aピアノ等による個人レッスン/B現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 Aピアノ等による個人レッスン/B子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 Aピアノ等による個人レッスン/B童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 7 後期産学連携第7週課題:今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか?そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に出会わなかった方は、音楽遊びを園生活の中で必要に応じて展開する際、保育者はどんなことに気を付けたらよいか、考えを教えてください。 8 Aピアノ等による個人レッスン/Bわらべ歌・手遊び歌の演習 9 Aピアノ等による個人レッスン/B簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 Aピアノ等による個人レッスン/Bリリックを含む歌遊びの演習 11 後期産学連携第11週課題:今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか?そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に出会わなかった方は、11月ならどんな歌遊びを、どんな展開で子どもたちと楽しみたいか、対象年齢も決めた上で教えてください。 12 Aピアノ等による個人レッスン/B互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 13 Aピアノ等による個人レッスン/B個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A B共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A B共)			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの子』教育芸術社			
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編			
担当教員の 専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リリック指導。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	選択必修 保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ 講義	講 師	大須賀 かおり、金淵 洋子、白鳥 久代、高山 美帆、渡辺 容子	
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。15回目の実技試験課題はピアノ曲1曲、子どもの歌1曲の弾き歌いを演奏する。自身のスキルに合わせた曲目選択は担当講師とよく検討し決定すること。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌いが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)	
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)	
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。			
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) (B)2グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 7 後期産学連携第7週課題:今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか?そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に出会わなかった方は、音楽遊びを園生活の中で必要に応じて展開する際、保育者はどんなことに気を付けたらよいか、考えを教えてください。 8 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)わらべ歌・手遊び歌の演習 9 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)リミックスを含む歌遊びの演習 11 後期産学連携第11週課題:今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか?そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に出会わなかった方は、11月ならどんな歌遊びを、どんな展開で子どもたちと楽しみたいか、対象年齢も決めた上で教えてください。 12 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 13 (A)ピアノ等による個人レッスン／(B)個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) (B)共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)(B)共)			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの子』教育芸術社			
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編			
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リミックス指導。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %

## 2026年度 講義要綱

科 目	選択必修 保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ 講義		講 師	金淵 洋子、楠野 麻衣、 白鳥 久代、鈴木 真智 子、藤村 秀子
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。15回目の実技試験課題はピアノ曲1曲、子どもの歌1曲の弾き歌いを演奏する。自身のスキルに合わせた曲目選択は担当講師とよく検討し決定すること。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌いが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)	
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)	
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。			
授業計画	<p>1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A B2グループに分かれて45分で入れ替わる)</p> <p>2 Aピアノ等による個人レッスン/B歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。</p> <p>3 Aピアノ等による個人レッスン/B保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。)</p> <p>4 Aピアノ等による個人レッスン/B現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)</p> <p>5 Aピアノ等による個人レッスン/B子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。</p> <p>6 Aピアノ等による個人レッスン/B童謡・唱歌等の子どもの歌の演習</p> <p>7 後期産学連携第7週課題:今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか?そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に出会わなかった方は、音楽遊びを園生活の中で必要に応じて展開する際、保育者はどんなことに気を付けたらよいか、考えを教えてください。</p> <p>8 Aピアノ等による個人レッスン/Bわらべ歌・手遊び歌の演習</p> <p>9 Aピアノ等による個人レッスン/B簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ)</p> <p>10 Aピアノ等による個人レッスン/Bリリックを含む歌遊びの演習</p> <p>11 後期産学連携第11週課題:今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか?そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に出会わなかった方は、11月ならどんな歌遊びを、どんな展開で子どもたちと楽しみたいか、対象年齢も決めた上で教えてください。</p> <p>12 Aピアノ等による個人レッスン/B互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。</p> <p>13 Aピアノ等による個人レッスン/B個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。</p> <p>14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A B共)</p> <p>15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A B共)</p>			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの子』教育芸術社			
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編			
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リリック指導。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %